

◆基礎講座資料

始めてバズ学習を始める人に

1. バズ学習とは

- (1) 一斉学習の反省…講義形式（無気力の助長・おちこぼれの育成）
- (2) 人間関係に立脚した共同学習（班を編成・話し合い学習＝ブンブンと羽音）
- (3) 認知と態度の統合理論（学力の向上・建設的な生活態度・学習への意欲化）

2. 班の編成《よい個人はよい集団から生まれ、よい集団はよい個人から生まれる》

- (1) 班員の人数……①人数（4人・6人） ②グループ間等質  
③男女同数（交互の配置）
- (2) 班編成の方法…①教師の意図 ②選ばれた班長の協議 ③抽選  
④班長を選出後、抽選 ⑤班長のピックアップ  
⑥仲良し班
- (3) 班長等の決定《よき班長は明日のよき班員、よき班員は明日のよき班長》  
①班長 ②副班長 ③教科の係 ④生活の係  
①班長の素質の是非 ②班長の権限の是非 ④班長の位置
- (4) 班の期間……①2週間 ②1ヶ月 ③2ヶ月

3. 授業の組み立て（学習者への必要感）

- (1) 準備過程・中心過程・確認過程
- (2) 指導→課題→個人思考→相互活動（話し合い）→指名（発表）→補足修正  
→確認（評価）

4. 「指導」の重要性（指導のない教育はない）

5. 課題づくり（児童生徒にやらせるもの）発問との関係

- (1) よい課題と悪い課題
  - ①課題の大きさ（30秒～3分～5分～15分）
  - ②適度な難易度（50～80%が可能な課題）
  - ③具体的な課題（テストのような問題）
  - ④中心課題（本時の目標）に迫るもの
- (2) 課題の数…決して多すぎないこと（例＝準備で1，中心で2，確認で1）  
課題の指示「聞くよ」

6. 個人思考の重要性（個人思考を軽視すると依頼心がつよくなる）

7. 相互活動（話し合い）《磨き合え！響き合え》

- (1) 形式 ①対人法 ②隣接法 ③輪番法 ④自由会話法 ⑤指名法 ⑥交互法
- (2) 話し合いのルール（意見の言い方、質問の仕方、語尾の言い方）
- (3) 注意 ①時間の指示（始め、終りを厳然と）全員できるまで待つ必要なし  
②話し合いは小声で（ヒップアップ）  
③教え合い「分からなければ聞け」（全員参加）  
④人に説明できて、始めてわかったということ

8. 課題の取り上げ方

- (1) 個人指名・班長指名・〇〇指名（必ずしも全班指名する必要はない）
- (2) 「わかりません」は禁句
- (3) 是認・否認・賞賛・激励・補足修正・発展

9. 評価活動（指導－評価はひとつのサイクル）

- (1) 即時評価の重要性《今わからせなければ、いつわかる》  
(長期評価・中期評価・即時評価)
- (2) 自己評価の重要性《わかった！わかった！と自分自身で確認すること》  
(評価活動を児童生徒の手に)
- (3) 評価の方法  
①観察法 ②隣接法 ③テスト法 ④問題法 ⑤ノート法 ⑦面接法  
○「言ってみよ、書いてみよ」 ○ハンドサイン ○アナライザーの活用

10. 補足修正の重要性（不到達者はここで到達させる）

●当初ぶつかる問題点

- ①やかましくなる (課題の大きさ・難易度・具体性, 学習ルールの強化)
- ②進捗がおくれる (課題の大きさ・数・取り上げ方)
- ③うまく話し合えない (課題の具体性, 班長指導, 話し合いの訓練)
- ④課題がうまくできない (簡単なものから, 本時の目標の確認, テスト問題参照)
- ⑤班が育たない (班長指導, 班会議, 教師指導)
- ⑥これでいいか不安 (生徒との話し合い, 授業の相互公開＝教師間・生徒も)
- ⑦後ろ向きの姿勢 (常時でない, 慣れれば問題はない)

●今後考えてみたいこと

- ①生活班への応用（掃除・給食） ②班ノートの活用 ③短学活の活用
- ④班の宿題 ⑤ミニテスト ⑥学習計画表 ⑦班目標の設定 ⑧自己評価表
- ⑨授業の反省・評価 ⑩部活動・特別活動・学校行事への活用

# 自ら学ぶ意欲を高め、一人一人が生きる算数教育

— 操作活動を生かした授業を通して —

愛知県春日井市立篠原小学校

藤田 浩実

## 1. 研究のねらい

算数科の授業を通して、児童一人一人が主体的に課題に取り組み、自力で解決していく習慣を身に付けさせるとともに、成長の喜びを味わわせる新しい授業づくりに取り組んだ。

操作活動を取り入れた単元構成・指導過程を工夫することにより、授業の活性化と意欲化を図ることができる。また、操作活動を取り入れることにより、個人差に応じた課題解決の多様化を図ることができ、それにより、児童は自分なりの考え方で解決し、学ぶ楽しさや成就感が得られ、主体的な取り組みや創造力が養われると考えた。

以上のことから、研究主題を上記ように設定し、研究の方法として

(1) 操作活動を取り入れた指導過程の工夫を図る。

(2) 個を大切にす手だての工夫を図る。

(3) 授業の評価のありかたを考える。

の3点を考え研究・実践を行った。

## 2. 研究の方法

(1) 操作活動を取り入れた指導過程の工夫

具体的には、

- ・導入段階で問題場面の提示に工夫を凝らし、学習課題を十分に把握させると同時に解決への関心・意欲を高めさせる。
- ・解決の方法や結果についてのおおまかな見通しをたてさせる場を設け、児童の直観力や論理的思考力を高めさせる。
- ・自力解決の場で、学習課題の工夫をし、解決方法の多様化を図る。また、個別指導の充実を行い、児童に自ら考え、つくりだす喜びを味わわせる。
- ・集団解決の場で、班や全体で解決方法の発表・検討・整理を行い、解決方法のより深い理解を図るとともに、解決方法の簡潔さや明瞭さや的確さなどの「よさ」を感得させる。

(2) 個を大切にす手だての工夫

具体的には、

- ・個を的確につかむために、児童の思考の経過を書かせるノート指導の工夫と児童の変容の様子を蓄積する座席表（カルテ）の作成を行う。
- ・個に応じた指導の手だてとしては、机間指導の充実とヒントカードによる自力解決の手助けを行う。

(3) 授業の評価

具体的には、

- ・形成的な評価と、授業の終わりに行う自己評価を取り入れる。

- ・認知面だけでなく、情意的な評価も重視する。
- ・評価の多様化を図る。

### 3. 研究の内容

#### (1) 操作活動の取り入れ方

操作活動はただやみくもに取り入れればよいというのではなく、単元のどの時間に、また、1時間授業の中でどの段階に取り入れると有効かということを考えなければならない。

単元のどこに操作活動を取り入れるかという点では、その単元の目標、指導内容、系統性を明らかにし、児童の実態を考えて指導計画を立てている。

1時間の授業の中でどこに操作活動を取り入れるかという点では、いろいろな場が考えられたが、時間的な制約と研究主題にせまるということを考えると、課題を解決する場で取り入れるのが一番有効であると考えた。

#### (2) 基本的な指導過程

1時間の授業を、問題解決学習における児童の思考の流れを考え、課題の把握「感じる・つかむ」解決の計画「見通す」、解決の実行「解決する(自力)」、発表・検討・整理「解決する(集団)」、確認・適用「確かめる・広げる」という5段階に区分した。

それぞれの段階のねらいと、望まれる思考の流れ・基本的な手だては次のページようである。

#### (3) 各段階での指導

##### 「感じる・つかむ」段階

導入時、問題場面の提示に工夫を凝らし、児童に疑問、興味・関心等を持たせ(感じる)、それらを解決する学習課題を十分につかませる(つかむ)段階。

児童が主体的に学習に取り組むためには、まず導入時において「おや、なんだろう」「おもしろそうだな」などと疑問、興味・関心を持たせ、学習意欲を高める工夫が必要である。そこで、児童にとって身近な素材や話題を用いたり、人気のあるキャラクターやはてなボックスを登場させたりした。この問題場面の提示は、単に児童を面白がらせるのではなく、本時の課題の把握や問題解決の意欲化のために必然性のあるものになるように心がけた。

これらの問題場面から、児童との対話を通して問題意識を呼び起こし、本時の課題を設定するようにした。この課題は児童が何をもとめればよいかを明確に把握できるよう心がけた。

##### 「見通す」段階

児童に解決の方法や結果についてのおおまかな見通しを立てさせ、やれそうだからから始めてみようという気持ちを持たせる段階。

課題を把握し、それを解決しようとする時、やみくもに取り組んでも真の問題解決の力を養うことはできない。そこで、前時までの学習との関連や児童の既存の知

《各段階のねらいと望まれる思考の流れ・基本的な手だて》

段階	ねらい	望まれる思考の流れ	基本的な手だて
感じる ・つかむ	問題場面の提示に工夫を凝らし、課題を把握させ、解決への関心・意欲を高めさせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おや、なんだろう</li> <li>・今日は、どんな学習をするんだろう</li> <li>・今日は、こんな学習をするんだな</li> <li>・解いてみたいな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラクターや身近な話題を用いた、イメージ化しやすい問題提示</li> <li>・児童との対話による学習課題の設定</li> </ul>
見通す	解決の方法や結果についてのおおまかな見通しを立てさせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな考え方でできるかな</li> <li>・前に学習した考え方が生かせそう</li> <li>・いろいろな考え方でできそう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主発問「解決の方法を見通しなさい」と生活経験や既習事項を想起しやすい補助発問</li> <li>・必要に応じて見通しを発表</li> </ul>
解決する(自力)	自分の立てた見通しにしたがって多様な方法で解決させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずこの考え方でやってみよう</li> <li>・ほかの考え方はないかな</li> <li>・ここまでできたけど、どうしたらいいのだろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数コーナーの具体物の充実</li> <li>・操作活動を重視した解決</li> <li>・ヒントカードや具体物を活用しての個別指導</li> <li>・実態把握と個別指導</li> <li>・発表黒板の記入</li> </ul>
解決する(集団)	自他の解決方法を発表・検討・整理させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱりこの考え方でよかった</li> <li>・この考え方はここがいい</li> <li>・あんな考え方もあったのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班活動での解決方法と結果の発表と修正・類型化</li> <li>・発表黒板を使っての発表</li> <li>・解決方法の妥当性の吟味</li> <li>・方法の類型化や一般化</li> </ul>
確かめる ・広げる	本時の学習をふりかえり、学習内容の定着・発展を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習をまとめるとこんなことが言える</li> <li>・発展問題もやってみよう</li> <li>・今日学習したことは、他にどんな所で使えるだろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったことの発表</li> <li>・練習問題、発展問題</li> <li>・自己評価表の記入</li> </ul>

識や経験をもとに、結果の見積りをさせたり、解決方法の計画を立てさせたりして、児童の直観力や論理的思考力を高めるようにした。

見通しの立てられない児童には、次の「解決する」の段階で個別指導をして、自力解決に向けての援助をする。また、見通しが立てられない児童の数が多い場合は必要に応じて見通しを発表させる場合があるが、原則として見通しは発表させない。  
《児童の見通しの例》

9/11		組のつくり方
P84	課	4まいのハンデキから
		3まい選ぶ組み合わせは
		いく通りできるか。
	見	・表にする。
		・図で表す。
		・ノートに書き出す。
		・カードを使う

#### 「解決する(自力)」段階

「解決する(自力)」段階では、特に操作活動を通しての課題の解決を重視し、児童に自ら考え、作りだす喜びを味わわせ学習意欲を高めさせるために、課題の工夫と個別指導の充実を図った。

ここでの課題は、操作活動を生かせるものとして、次のような条件を考え開発・工夫を図った。

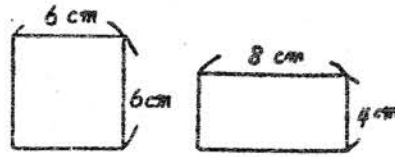
- ア. 解答は一つでも多様な解き方・追求の仕方があるもの
- イ. 条件に合うもの(解答)がたくさんあるもの
- ウ. 成績下位の児童にもそれなりに取り組めるもの  
(教師の支援により可能になるものでもよい)
- エ. 児童の経験に即しているものであり、ある程度の難しさや障害があるもの
- オ. できた、できないという評価ではなく、いくつ、いく通り、どの程度できたかということで多面的な評価ができるもの

この課題にあわせ、取り組みやすいよう教材や教具も工夫し、解決のための時間を十分に確保した。

—児童の解法の多様化が図られた例—

**課題** 正方形①と長方形②ではどちらが広いか。

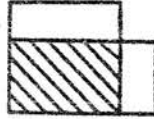
(a) 周りの辺の長さを測り比べる。(誤答)



- ① 24cm  
② 24cm

広さは同じ、(できない)

(b) はさみで切り取り、重ねてはみでた部分を比べる。



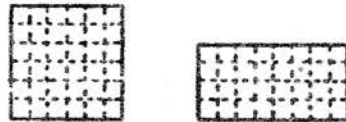
①の方が広い

(c) 畳(長方形)を敷き詰め、その数で比べる。



- ① 4.5畳  
② 4畳  
①の方が広い

(d) 方眼のTPを置き、マスのかぞえて比べる。



- ① 36マス  
② 32マス  
①の方が広い

**「解決する(集団)」段階**

この段階では、班や全体で解決方法と結果を発表させ、それに対して他の児童から質問をさせたり意見を述べさせたりした。これらの質問や意見で、発表された解決方法の不十分な点が補われ、誤った考えは修正された。また、ここでは同じ考え方による解決方法を整理したり、それぞれの考え方を比較することも行わせた。それにより、解決方法のより深い理解を図るとともに、解決方法の簡潔さや明瞭さや的確さなどの「よさ」を感得させるようにした。

**「確かめる・広げる」段階**

本時の学習をふりかえり、学習内容の定着・発展を図る段階。学習のまとめは、単に教師がまとめをするのではなく、本時の学習内容をふりかえらせ、できる限り児童の発表をもとに本時のまとめとした。また、本時の学習内容の定着を図るため、応用・発展問題も取り組ませたり、学習した考え方がほかにどんなところで生かせるのか考えさせたりした。

また、この段階では1時間の授業をふりかえり

- ・今日の学習内容はよく分かったか。(理解度)
- ・今日の授業は意欲的に取り組めたか。(参加度)
- ・今日の授業は面白かったか。(関心度)

などの観点を3段階で自己評価させ、授業の感想を書かせた。これによって、自らをみつめ、正しく評価できるよう自己評価能力を高めさせるとともに、児童の正確な実態把握を図った。

(4) 個を大切にすること

ア. 反応器を使った机間指導

自力解決の場で、短時間で児童の様々なタイプをつかみ、それに対応した指導を加えることは難しいことである。そのため、反応器をアナライザーとして活用し、効率よく机間指導を行うようにしている。

－反応器の活用例－

発問	見通しを立てなさい	→ 解決しなさい	→ 確認問題をしなさい
黒板掲示			
児童の反応 (反応器の置き方)	<p>1つは立てれた。</p> <p>2つ以上立てれた。</p>	<p>2通りのやり方で解決できた。</p> <p>3通り以上のやり方で解決できた</p>	<p>できていない。</p> <p>できた。</p>

イ. ヒントカード

課題解決に向かって操作活動を進めて行くとき、途中で行き詰ってしまう児童に対して教師支援としてヒントカードの活用を図ってきた。授業内容に即した方法で解決させるために、その糸口を記したカードを段階別に用意し、必要と思われる児童に与えた。このような援助により児童は、課題を自力で解決したという成就感、満足感を味わうことができ、学習への意欲化を図ることができた。

－ヒントカードの実践例－

ヒントカード1 (成績下位向け)

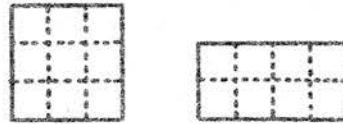
○ ①と②のへやに紙のたたみをならべてみよう。

補助発問 (成績上位向け)

教材コーナーのものを使った他のやり方はないだろうか。

ヒントカード2 (成績中位向け)

○ どちらのチョコレートが大きいか。



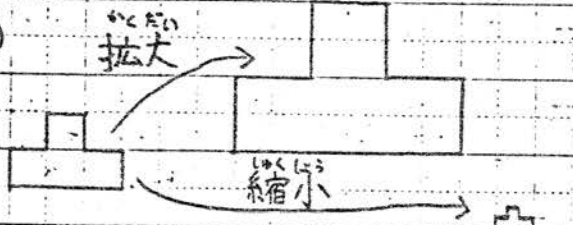


ウ. ノート指導

ノートには、指導過程や児童の思考が記録されている必要がある。そこで、次のようなことに気をつけてノート指導をしている。

- ・本時の課題を明確に書く。
- ・課題解決への見通しを書く。
- ・自力解決の場での試行錯誤のあとを記録する。
- ・友達の意見や学習内容のまとめを書く。
- ・毎時間の反省としての自己評価表を書き、ノートに貼付する。

- 児童のノート例 -

6/18	図形の拡大と縮小
①	アからカの凸形の図形はもとの図形と形が同じか調べよう
②	方法 ○じょうぎで四つつの正方形をしまってはさみで切って重ねる
③	 <div data-bbox="1053 1030 1388 1187" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                 ※自力解決の内容はワークシートに記入してある。             </div>
	拡大図…拡大した図形
	縮図…縮小した図形
④	今日の学習内容 (6月 18日) 拡大図、縮図を知る。 1、今日の学習内容はよく分かったか。 (◎) 2、今日の授業はまじめにじっくり取り組めたか。 (○) 3、今日の授業は面白かったか。 (◎) 4、 ( ) 感想 凸が凸にしきる方法がわかってよかった。 紙を切ってしまうのはるのをわすれてしまったのが残念だった。 名前 ( )

## エ. 座席表

本校では、各個人の欄の上に4項目の評価、下段には児童の姿や指導の手だてを記載した座席表を作成している。児童一人一人の能力を認め、さらに伸ばしてやれるよう配慮すべき内容を指導の手だてとして記載している。

### 一 座席表(カルテ)の実践例一

<p>⑧</p> <p>○△○△ おとなしいが、考えられたことは黙々とやり進める。</p>	<p>13</p> <p>○ ○ ○ ○ 真面目に取り組む。積極的な取り組みをさせたい。</p>	<p>⑨</p> <p>○ ○ ○ ○ 能力があるので、多様な考えで取り組ませたい。</p>	<p>⑩</p> <p>○△△△ 真面目に丁寧に取り組む。やや真意が否手になり始めている。</p>
<p>9</p> <p>○ ○ ○ ○ 能力があるので、多様な考えで取り組ませたい。</p>	<p>⑫</p> <p>○ ○ ○ ○ 注意があり、作業が早く丁寧である。</p>	<p>14</p> <p>○ ○ ○ ○ 取りかかりが積極的。ノート記入が速になりやすいので、丁寧に取り組ませたい。</p>	<p>11</p> <p>○ ○ ○ ○ 作業が早い。壁になれず、じっくり取り組ませたい。</p>
<p>⑪</p> <p>○△△△ 真面目に取り組めるのだが、自信のない姿が見られる。個別指導が必要。</p>	<p>2</p> <p>○ △ △ △ 真面目に取り組めるのだが、自信のない姿が見られる。個別指導が必要。</p>	<p>⑬</p> <p>○ ○ ○ ○ 真面目に取り組むのだが、ややそっかしくミスが出やすい。</p>	<p>12</p> <p>○ ○ ○ ○ 知識・技能は秀でているわけではないが、発問</p>
<p>1...男子、1...女子 氏名</p> <p>◎算数への ◎数学的な位置 ◎発問力 ◎関心 ◎考え方</p> <p>児童の姿や指導の手だて</p>	<p>◎◎◎◎ 座席表</p> <p>◎◎△△</p>	<p>⑭</p> <p>○ ○ ○ ○ 発問力、はげともに優れている。積極的に取り組める。</p>	<p>5</p> <p>○ ○ ○ ○ 真面目に丁寧に取り組む。やや真意が否手になり始めている。</p>
	<p>6</p> <p>◎ ◎ ◎ ◎ 発問力、はげともに優れている。積極的に取り組める。</p>	<p>15</p> <p>◎ ◎ ◎ ◎ 発問は否手だが、作業が早く、ひらめきがある</p>	<p>⑮</p> <p>△△△△ かけ算・割り算などの基礎的な知識・技能が身に付いていない。個別指導が必要。</p>

## (5) 授業の評価

個に応じた学習指導を展開するには、正確な実態把握がなくてはならない。そこで、児童の学習方法や指導方法を評価するために、指導過程の段階に示された評価の観点で行う形成的な評価と、「確かめる・広げる」の段階で行う自己評価を取り入れた。これらの評価は、認知的な面だけでなく、情意的な面の評価も重視していた。

各段階で行う形成的な評価はできるだけ多様化を図り、「できた」「できない」という評価ではなく、同じ「できた」でも「どうできた」「どこまでできた」という解決する過程を大切に評価を心がけてきた。

情意面の評価は、成績の上位、中位、下位の児童の望まれる姿を考え、主に自力解決の場で評価した

### 一 認知面と情意面の評価例一

(評)「大きさは違っても形は同じ」の意味をとらえ拡大図や縮図を理解したか。  
(観察、ノート、発表)

A 形調べが多様な調べ方ででき、拡大図や縮図を理解した。

B 形調べができ、拡大図や縮図を理解した。

C 形調べは不十分だったが、話し合いや説明で拡大図や縮図を理解した。

(評)意欲的に四角すい作りに取り組めたか。  
(観察、ノート)

- ・いろいろな展開図をかき、積極的に四角すい作りに取り組めた。
- ・かいた展開図は少ないが、ていねいに四角すい作りに取り組めた。
- ・教師の補助を受けたが、最後まで粘り強く取り組めた。

「確かめる・広げる」で行う自己評価は、各段階での指導でも述べたように、理解度・参加度・関心度を各学年毎に作成した自己評価表に3段階で評価させ、感想を付け加えて提出させた。この自己評価表は、ともすれば主観的になりやすい教師サイドの評価を補うだけでなく、自己評価のデータをコンピュータ入力して、指導方法の評価や授業分析にも使った。

## 5. 研究の成果

この2年間、研究主題の達成を目指して、教育の新しい流れの中で、試行錯誤を繰り返しながら粘り強く実践を積み重ねてきた。その成果は、いろいろな所に表れている。

### (1) 算数の授業での成果

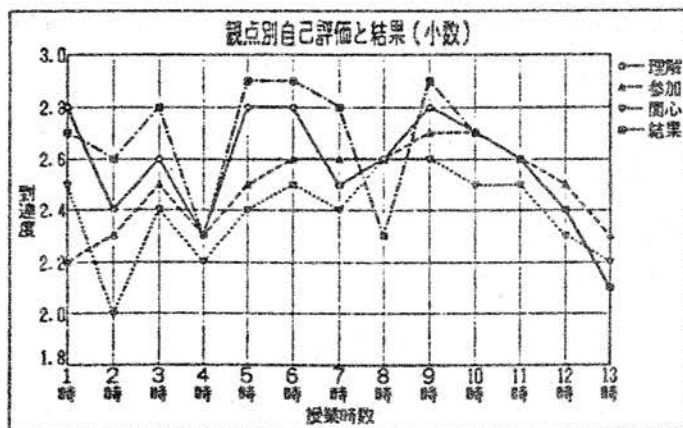
児童は、操作活動を生かした授業に初めは戸惑いを感じていたが、徐々に学習への参加度が増し、多様な考え方ができるようになった。また、自分なりの解答が出せるようになり、学ぶ楽しさや成就感を体得してきている。

学年末のアンケート結果では、「あなたは算数が好きですか。」「算数の勉強は楽しいですか。」という問いに対して、肯定的な解答が増え、否定的な解答が大幅に減った。そして、操作活動を取り入れた授業に対し「楽しい」「よく分かる」と答えた児童は70%を越えた。

また、解法の多様化やヒントカード・机間指導の工夫などの個を大切にした指導によって、成績下位の児童の基礎学力が向上し、算数嫌いの児童の数も減った。そして、なにより、解答待ちで受身的な児童がいなくなり、多くの児童が主体的に課題解決に取り組めるようになったのは、大きな成果である。

### (2) 自己評価の分析から見た成果

右の図は単元「小数」(4年生)での観点別の自己評価とテストの結果の学級平均のグラフで、理解度の自己評価とテストの結果が、ほぼ同様の推移を示している。このことは、この後の単元でも見られ、児童はかなり信頼のおける自己評価をしていることが分かった。



これは、毎時間行う自己評価表の記入が、自己評価能力を高めたと考えられ、自己教育力の育成に大いに役立つと思われる。

また、このグラフでは、理解度、参加度、関心度の3つの観点も同じような推移を示している。つまり、「よく分かる授業」は「意欲的に参加した授業」であり「面白かった授業」でもあるわけである。

このことから、操作活動や班活動を取り入れた授業は、授業への参加度や関心度を増すので、理解度を高めるには効果的であることが分かる。

成績上位、中位、下位別の観点別グラフからは、操作活動を取り入れると成績下位の児童の関心度、参加度が増すことが分かった。また、成績上位の児童は、課題にある程度の難度がないと、関心度が下がることから、解法の多様化の工夫の必要性も分かった。

### (3) 算数の授業以外の場での成果

操作活動を取り入れた算数科の学習を通して、児童は学び方や追求の仕方、論理的な説明の仕方を身に付けることができ、他の学習においても意欲的に取り組む姿が見られるようになった。

また、環境整備の一環として行っていた算数コーナーでの掲示物作りでは、児童が思考を凝らした算数の授業以外の問題を考えだし、活気のある活動となっている。

この活動で、日常生活のさまざまな場面で、数量や図形に関する関心・興味を高め、量感や直観力を養うことができた。

そして、何かにつけてあきっぽいと思われがちだった児童が、3時間もかけて、粘り強くサッカーボール作り上げるのを見て、確かな成果を感じた。

## 6. 今後の課題

本研究は、授業づくりを中心に進めてきた。しかし、まだまだ次のような課題を残している

- ・操作活動を取り入れ、多様化を図ることにより、時間がかかりすぎるため、授業をいかに効率よく進めていくか。
- ・ヒントカードや教材・教具の準備を、いかに児童の要求や実態に合わせ、効率よく行うか。
- ・操作活動と思考の結び付きが弱く、ただ操作することだけで満足してしまう児童がいる。
- ・解決方法の発表・比較・検討での練り上げ方が、まだ不十分である。

これらの課題を解決していくため、これからも継続して研究を続けなければならない。

## 子どもがのりだし、みつけ、ねり上げる算数の授業

—数理的な処理のよさが分かり、自ら意欲的に学習する子どもの育成—

滋賀県 伊吹小学校 室谷 重治

### I. 研究の主題

#### 1. 研究主題

子どもがのりだし、みつけ、ねり上げる授業の創造

—数理的な処理のよさが分かり、自ら意欲的に学習する子どもの育成—

#### 2. 主題設定の理由

新教育課程の改善のねらいの一つに「自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力の育成を重視すること（自己教育力の育成）」があげられ、21世紀に向けて、自ら意欲を持ち主体的に考える子どもの育成を図る教育が求められている。本校でも、教育目標「すすんでやりぬく伊吹の子」を掲げ、算数科を窓口にしてこの教育の具現化に努めてきた。

研究主題の「のりだす」「みつける」「ねり上げる」とは、次のことを指す。

まず「のりだす」とは、子どもの側に立った教育を推進し、子ども自らが意欲的に学習する姿を求めたものである。この場合の意欲とは、学習活動における積極的な態度と行動であり、同時に、目標に向けてそれをやり遂げようとする努力を指す。

次に「みつける」とは、子どもが自分なりの見方・考え方を持ち、個性的で豊かな発想をする姿を求めたものである。この場合の発想とは、既習の経験を活用して、具体的な操作などから生み出された根拠のある発想である。

最後に「ねり上げる」とは、学級集団の中で、主体的にたくましく課題を解決していく姿を求めたものである。子ども一人ひとりが自分の見方・考え方を出し合い、数理的な処理のよさを視点として話し合うことにより、見方・考え方が高められ、内発的な意欲の喚起につながると考える。

このような意欲や主体性を身につけることによって、21世紀を展望し、社会の変化に対応し、自ら学び続ける力を培うことができるであろうと考え、この研究主題を設定した。

#### 3. 研究仮説

サブテーマである「数理的な処理のよさが分かり、自ら意欲的に学習する子どもの育成」を達成するために、次の3つの仮説を設定した。

仮説1： 具体的な操作などの活動を通して自分の考えをかためる段階を充実していけば、意欲的に学習に取り組み、個性あふれる見方・考え方が出るであろう。

仮説2： いろいろな見方・考え方を比較し、検討する過程を大切にすれば、数  
理的な処理のよさが分かるであろう。

仮説3： 観点別目標に即した評価の工夫をすれば、子どもの見方・考え方の変  
容の把握や学習の意欲化図れるであろう。

#### 4. 単位時間の基本的学習過程

段階	子どもの活動	教師の働きかけ・子どもの応答	子どもへの配慮	評価の手だてと観点
つかむだけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題を知る</li> <li>○予想を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習課題の提示の仕方を工夫して、子どもに興味や関心をうながす。</li> <li>●既習事項との比較から類似点や相違点を明確にして課題をとらえさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●見通しがもてない子どもへの助言をする。</li> <li>●低学年では見通しをある程度発表させ、学年が進むに従って発表の場面を少なくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題がしっかりつかめたか。(子どもの表情やつぶやきなど)</li> <li>●およその大きさや形などがわかったか。</li> <li>●方法をみつけることができたか。(ワークシート)</li> </ul>
みつめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で考えた方法で解決する</li> <li>○解決の筋道をワークシートなどに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既習事項や数学的な考え方を生かし、具体的な操作などを活用して、個のよさが生きる解決をさせる。</li> <li>●発表者や発表の順番などを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●座席表を活用し、類型化に応じた個別指導を行い、助言やヒントカードなどを与え、自力解決させる。</li> <li>●進んだ子どもには、解決の過程の説明を審かせたり、よりよい方法で考えさせたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分なりの考えで解決できたか。(みつかけカード)</li> </ul>
ねり上げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○解決したことを発表する</li> <li>○解決の仕方比べる</li> <li>○「よさ」をとらえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●考え方の共通点、相違点を明らかにし、分類・整理する。</li> <li>●整理された考え方を比較し、吟味する過程を通して、よさを見つけ出させる。</li> <li>●簡潔さ、明確さ、的確さ、手際よさなどのよさに着目させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●不十分な考えを生かすようにし、考えを認めたり、はげましたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友だちの考えと比べることができたか。(わり上げカード・拳手・ハンドサインなど)</li> </ul>
ふりかえる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習したことをワークシート等にまとめる</li> <li>○練習問題や学習の仕方等についての自己評価をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●結果だけでなく思考の過程を振り返らせ、「よさ」や根拠にふれたまとめを審かせる。</li> <li>●練習問題をさせる。</li> <li>●自己評価させ次の学習に生かすようにする。</li> <li>●新たな問題や発展的な問題の解決についての見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一人ひとりの進歩をとらえ、認める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「よさ」にふれたまとめができたか。(ワークシート)</li> <li>●学習内容がしっかり理解できたか。(よいかえりテスト)</li> <li>●学習に意欲的に取り組めたか。(よいかえりカード)</li> </ul>

## II. 実践事例

### 1. 単元名 三角形と角 (第3学年)

#### 2. 単元の目標

関心 意欲 態度	ア 日常の生活で、二等辺三角形や正三角形が生かされている場を見つけようとする。 ア 対称な図形の美しさを感じ、進んで模様を描こうとする。
数学的な 考え方	イ 辺や角に着目したり作図したりすることにより、二等辺三角形や正三角形の相互関係について考える。
表現 処理	ウ 二等辺三角形や正三角形を、定義に基づいて作図することができる。 ウ 写し取ったり重ね合わせたりすることにより、角の大きさを比べることができる。
知識 理解	エ 二等辺三角形や正三角形の定義及び性質について理解する。 エ 角の概念を理解する。

#### 3. 指導によせて

##### (1) 教材をとらえる

児童は第2学年の「三角形と四角形」において、図形を構成する要素である辺や頂点に着目して、三角形の定義及び基本的性質について学習してきている。また、「長方形と正方形」において、直角の概念について理解し、直角三角形についても知っている。

本単元ではまず、三角形を、辺の長さの相等関係に着目してとらえさせる。そして、二辺が等しい三角形として二等辺三角形、三辺とも等しい三角形として正三角形があることを知らせる。また、二等辺三角形には二つの等しい辺があるが、残りの辺もこれらと長さを等しくすれば正三角形になる。この二等辺三角形と正三角形の相互関係についても、作図などの活動を通して気づかせるようにしたい。

次に、角について指導し、「一つの頂点から出ている二本の辺でできている形」と定義する。しかし、この時期の子どもには、理論的に理解させたり言葉で表現させたりすることは容易ではない。したがって、具体的な操作活動を通して、感覚的につかませるようにしたい。また、角の大きさは二本の辺の開き具合によって決まり、ぴったり重なり合えば等しいことになる。この考えを用いて、角の大きさの比較は、折る・切る・写す等の方法により角を重ね合わせればよいことに気づかせたい。なお、角は辺の長さに関係しない概念であることも明確にしておきたい。

最後に、二等辺三角形や正三角形を、角の大きさの相等関係に着目してとらえ直す。そして、二等辺三角形は二つの角が等しく、正三角形は三つの角がすべて等しいという性質を見つけさせる。なお、前述の辺の長さについての相互関係は、角の大きさについてもあることに気づかせたい。

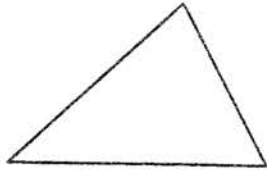
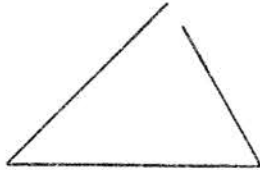
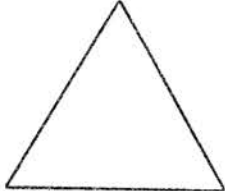

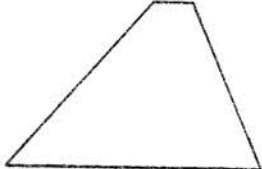
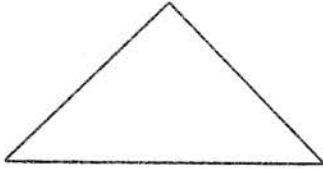

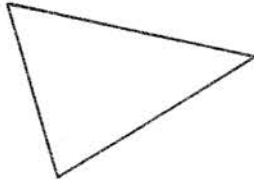
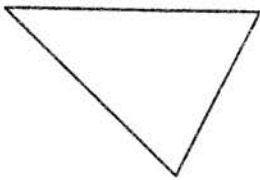
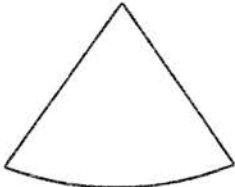
##### (2) 児童をみつめて

男子18名、女子16名、計34名の学級である。どの子も明るくて素直で、特

に男子には活動的な子が多い。一学期に学習した図形領域「円と球」では、運動場に大きな円をかいたり立体模型を使って球の構成要素を調べたりしたが、活発な態度を示したのは男子であった。それに比べて、女子は慎重で、進んで挙手する子は限られていた。しかし、コンパスを使って円をかいたり美しい模様を描いたりする活動には、根気よく丁寧に取り組めた。

さて、本単元の指導に先立って、次のようなレディネステストを実施した。

※次の形を見て、三角形だと思うものには○、三角形ではないと思うものには×を、( )の中に入れて書きましょう。

<p>① ○… 31人 ×… 3人</p> 	<p>② ○… 0人 ×… 34人</p> 
<p>③ ○… 33人 ×… 1人</p> 	<p>④ ○… 30人 ×… 4人</p> 
<p>⑤ ○… 0人 ×… 34人</p> 	<p>⑥ ○… 34人 ×… 0人</p> 
<p>⑦ ○… 25人 ×… 9人</p> 	<p>⑧ ○… 31人 ×… 3人</p> 
<p>⑨ ○… 31人 ×… 3人</p> 	<p>⑩ ○… 0人 ×… 34人</p> 

その結果、②の「辺が頂点まで届いていない形」や⑤の「台形」、⑩の「おうぎ形」については、全員の子どもが、「三角形ではない。」と理解していることが分



かった。第2学年の「三角形と四角形」で学習した三角形の定義が、よく理解できていると言える。しかし、⑦の「鈍角三角形」を「三角形ではない。」と考えている子が、9名もいることも分かった。①のような日頃見慣れている「鋭角三角形」ではないからであろう。従って、単元の学習をする中で「鈍角三角形」にもふれ、三角形としてとらえられるように指導していきたい。

次に、話し合い活動については、一学期に、みんなに聞こえる声量で話すことに力点を置いて指導してきた。そして、二学期からはハンドサインを提示し、賛成（パー）・質問（チョキ）・他の考え（グー）・付けたし（人差し指）の意思表示をさせている。そのため、最近では、発言に対して補足をしたり反対意見を言ったりする子が増え、子ども達主体の話し合いができるようになりつつある。

最後に、二等辺三角形や正三角形の作図においては、コンパスを使用させる。「円と球」において、コンパスの円をかく以外の機能についても指導しているが、本単元では更にそのよさに気づかせるようにしたい。

### (3) 指導にあたって

#### ○ 仮説1にかかわって

二等辺三角形や正三角形の定義を知る学習では、まず初めに、いろいろな三角形を自由に描かせる。そして、それらの三角形を自分で決めた観点で仲間分けする活動を十分にさせたい。その中で、辺の長さの相等関係に着目させ、二つの辺の長さが等しい三角形や三つの辺の長さが等しい三角形の存在に気づかせていく。このような操作活動を通して二等辺三角形や正三角形の定義を導いていくが、これだけではこれらの三角形の概念の理解が十分とは言えない。そこで、定義を使って図形を作図する活動を取り入れ、概念をより確かなものにしていきたい。

また、二等辺三角形や正三角形の性質を調べる学習では、角の大きさの相等関係に着目して、これらの三角形をとらえ直させる。その際、折る・切る・写す等の操作活動を十分にさせ、二等辺三角形は二つの角が、正三角形は三つの角がそれぞれ等しいことを、児童が発見的にとらえられるようにさせたい。

#### ○ 仮説2にかかわって

3年生の児童は、同じ類型に分類される考えであっても、少しの違いがあれば違う意見だと主張する傾向がある。そのため、自由発表によって意見を出させようとすると、多くの意見が集まり過ぎ、処理に困る場合も起こってくる。そのため、友達のいろいろな見方・考え方を知る段階では、あらかじめ操作活動の段階で意図的に指名しておいた児童の意見を中心に取り上げるようにする。

また、ねり上げる段階では、二学期から指導し始めたハンドサインを活用する。賛成（パー）や質問（チョキ）、他の考え（グー）、付けたし（人差し指）の意思表示をさせ、子ども達主体の話し合いができるようにしたい。

なお、本単元では並列型によっていくつかの考えを並べて提示し、それぞれの考えを比較・検討するようにさせたい。

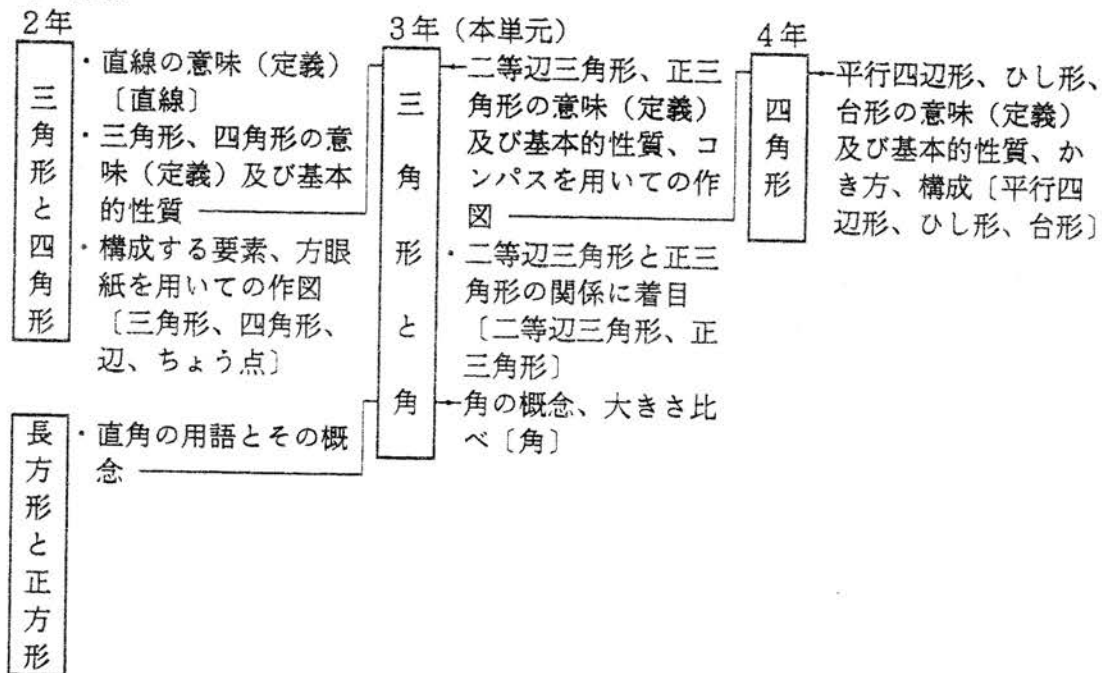
○ 仮説3にかかわって

操作活動を通してつくった自分の考えをワークシートに書き込ませたり、操作活動に使った紙をワークシートにはったりさせる。その時、結果だけではなく、思考の過程や説明をも書かせることにより、指導者が子どもの見方・考え方を把握し易いと考えた。また、友達の見えとの相違点に気づき、子ども自らが考えをフィードバックさせるのにも有効であると考えた。

さらに、毎時の学習において「ふりかえりテスト」と「ふりかえりカード」を使って、それぞれ認知面・情意面の評価を行う。これにより児童は、自己の学習成果について自覚し、次の学習への意欲を喚起するであろう。また、指導者はこれらの評価をもとに個別指導を行ったり、次時以降の指導に工夫を加えたりするように努める。

なお、常に子どものつぶやきに耳を傾け、表情を観察することにより、児童主体の学習が展開されるようにする。

4. 系統



5. 学習計画 (全9時間)

次	子ども の 活 動	知識のよき 関考表知 態え方処理
	<p>課題1</p> <p>たくさんのお三角形を作ろう。(1)</p> <p>・円形ジオボードの点を結んで、いろいろな形の三角形を作る。どんな三角形ができたか発表し、自分が作らなかった三角形を作る。</p>	ア
	<p>課題2</p> <p>作った三角形を仲間分けしよう。(1)</p> <p>・作った三角形を仲間分けし、どんな仲間分けをしたか発表する。二等辺三角形、正三角形を知り、コンパスを使って辺の長さ確かめる。</p>	エ
	<p>課題3</p> <p>二等辺三角形をかこう。(1)</p> <p>・まず、自由に二等辺三角形をかき、次に、三辺の長さが示された二等辺三角形のかき方を考え、発表する。</p>	イウ
	<p>課題4</p> <p>正三角形をかこう。(1)</p> <p>・二等辺三角形のかき方をもとに、正三角形のかき方を考え、発表する。二等辺三角形と正三角形の相互関係に気づく。</p>	イウ
次	<p>課題5</p> <p>三角形のかどの大きさ比べをしよう。(1)</p> <p>・三角形のかどの大きさを比べる方法を考え、かどの大きさ比べをする。角について知り、三角定規の角を調べる。</p>	ウエ
	<p>課題6</p> <p>二等辺三角形の角の大きさを調べよう。(1) ……本時</p> <p>・二等辺三角形の角はどうなっているか調べ、二等辺三角形には大きさの等しい角が二つあることに気づく。</p>	イ エ
	<p>課題7</p> <p>正三角形の角の大きさを調べよう。(1)</p> <p>・正三角形の角はどうなっているか調べ、正三角形の三つの角の大きさは等しいことに気づく。</p>	イ エ
次	<p>課題8</p> <p>折り紙で、二等辺三角形、正三角形を作ろう。(1)</p> <p>・折り紙で、二等辺三角形、正三角形の作り方を考え、発表する。作った三角形で模様を描く。</p>	ア
三	<p>課題9</p> <p>まとめの練習をしよう。(1)</p> <p>・教科書などの問題練習をする。テストをする。</p>	アイウエ

6. 本時の目標

〈認知的目標〉 三つの角の大きさを比べる操作活動を通して、どんな二等辺三角形にも大きさの等しい角が二つずつあることを理解する。

〈態度的目標〉 折る、切る、写す等の方法により、自ら進んで角を重ね合わせ、大きさを比べようとする。

7. 学習展開

段階	子どもの活動	教師の働きかけ・子どもの反応	子どもへの配慮	評価の手がかり
の つ か む ・ み だ と お す	1. 本時の課題を知る。  2. 角の大きさと調べる方法の見通しを持つ。	<p>二等辺三角形の角の大きさを調べよう。</p> <p>○今日は、二等辺三角形の三つの角の大きさがどうなっているか調べましょう。</p> <p>○三つの角の大きさを比べてみましょう。 ・角イ、角ウ、角アの順に大きい。 ・角イと角ウが同じで、角アが一番小さい。</p> <p>○どうしたら、調べることができますか。 ・切って重ねる。 ・折って重ねる。</p>	<p>・今日扱うのは、二等辺三角形であることを明確にしておく。 ・視覚による直感を大切にさせる。</p> <p>・前時に三角形の角の大きさ比べをした時のことを思い出させる。</p>	<p>・課題がしっかりつかめたか。(子どものつぶやき等の観察)</p> <p>・自分なりの見通りができたか。(挙手)</p> <p>・自分なりの方法の見通しが持てたか。(ワークシート)</p>
み つ け る	3. 二等辺三角形の角の大きさを調べる。	<p>○それでは、二等辺三角形の角の大きさを調べてみましょう。 ・二等辺三角形の角の部分だけを切り取って、重ね合わせて調べる子。 ・二等辺三角形を切り取って、頂点を合わせて二つ折りにし、調べる子。 ・薄い紙に角を写し取り、元の二等辺三角形に重ね合わせて調べる子。</p>	<p>・調べ方が分からない子には、個別指導をする。 ・一つ調べられた子には、他の二等辺三角形についても調べさせる。</p>	<p>・自分なりの方法で、二等辺三角形には大きさの等しい角が二つあることを見つけたか。(ワークシート、見つけカード)</p>
ね り 上 げ る	4. 角の大きさを調べて、見つけたことを発表し合う。	<p>○二等辺三角形の角の大きさを調べて、見つけたことを発表しましょう。 ・やっぱり、①の二等辺三角形は、角イと角ウが等しかった。 ・②の二等辺三角形も、思った通り、角イと角ウが等しかった。 ・③の二等辺三角形も、角アと角ウが等しいことが分かりました。 ・どの二等辺三角形にも、大きさの等しい角が二つずつあることが分かりました。</p> <p>○二等辺三角形なら、必ず大きさの等しい角が二つあるのでしょうか。 ・④の二等辺三角形はものすごく大きいけれど、等しい角は二つあります。 ・⑤の二等辺三角形は、三つの角の大きさがよく似ているけれど、やっぱり二つの角の大きさが等しいです。</p>	<p>・①、②、③の二等辺三角形一つひとつについて、どのようにして調べたかを説明させる。 ・等しい辺と等しい角の位置関係や、きちんと重なるように折れば二つの直角三角形に分かれるといたるところまでは、詳しく取り上げない。 ・二等辺三角形の大きさや形には関係がないことを、①～③と比較しながら考えさせる。</p>	<p>・自分の見つけたことを発表できたか。(挙手)</p> <p>・大きさの等しい角が二つあるという性質を、二等辺三角形の大きさや形には関係がない概念として捉えることができたか。(ワークシート)</p>
ふ り か え る	5. 本時のまとめをし、次時の課題を知る。	<p>○二等辺三角形には、大きさや形に関係なく、大きさの等しい角が二つあることが分かりましたね。</p> <p>○最後に、テストをしましょう。</p> <p>○次の時間は、正三角形の角の大きさについて調べましょう。</p>		<p>・認知面、情意面の評価をする。(ふりかえりテスト、ふりかえりカード)</p>

### Ⅲ. 研究の成果と今後の課題

#### 1. 研究の成果

##### (1) 仮説1にかかわって

###### ①意欲が継続するようになった

今までは、意欲的に学習に取り組めても、単発的で1時間限りのものであった。しかし、次第に意欲的な学習が続くようになり、単元を通して続くことも見られるようになってきた。

ア：意欲を促す学習過程の工夫による

「のりだす」・「みつける」・「ねの上げる」・「ふりかえる」の4つの学習過程を子どもに身につけさせることにより、主体的にたくましく課題を解決していこうという姿が見られるようになってきた。

イ：意欲をかきたてる課題の設定による

指導計画を立てるときに、意欲をかきたてる課題の設定をした。これにより、子どもの関心・意欲を高めるとともに、課題意識につながりが見られるようになってきた。

###### ②個性あふれる見方・考え方が出るようになった

操作活動などの活動を工夫することにより、それぞれの子どもの個性に即した見方・考え方を持たせられるようになってきた。

ア：「みつける段階」での時間の確保により、十分に自分の考えが固められるようになってきた。

イ：操作活動に幅を持たせたため、個性的な発想が生まれるようになってきた。

##### (2) 仮説2にかかわって

###### ①数理的な処理のよさが分かるようになってきた

子どもの話し合い活動の中で、数理的な処理のよさについて話し合う場面が見られるようになってきた。また、子どもが、「なるほど」・「うまく考えている」というように、よさが分かるようになってきた。

###### ②子ども主体の話し合いができるようになってきた

子どもが主体的に話し合い活動をするようになってきた。

ア：話し合いの経営案により、学級経営の一つとして、教師が継続的に指導をするようになってきた。

イ：子どもの考えを集める工夫により、学習内容に応じて効果的に考えを集めることができ、素早く話し合いに入れるようになってきた。

ウ：不十分な考えでも取り上げ、誉めることにより、子どもは話すことに対して自信をもつようになってきた。

##### (3) 仮説3にかかわって

###### ①子どもの見方・考え方の変容を把握する

教師が指導に生かすためのコーチ役としての評価を目指した結果、子どもの見方・考え方を的確に把握できるようになってきた。

ア：ワークシートや他の具体的評価の手だてを組み合わせることにより、評価を授業に生かせるようになってきた。

イ：座席表を利用した「見つけカード」は、次の「ねり上げる段階」で発表させる子どもを見つけたり、個別指導をしたりするのに大変有効であることが分かった。

## ②学習の意欲化を図る

教師は、子どもの見方・考え方の変容を把握し、コーチ役としてフィードバックしながら指導していくが、それとともに子どもを励まし、意欲を高めるための評価をしていく。

ア：意欲調査による

子どもの認知面の実態を把握するレディネステストを単元構成や指導に積極的に活用することができた。また、情意面の実態を把握する「意欲調査」により、子どもの算数に対する関心・意欲がつかめた。

イ：子ども自身による評価

子ども自身による評価によって、子どもは自分の学習成果や情意的成果について振り返ることができる。このことにより、次の学習への意欲を引き出すことが分かってきた。

## 2. 今後の課題

### ①学習過程の効率化

「のりだす」・「みつける」・「ねり上げる」・「ふりかえる」の現行の学習形態だけにとらわれず、授業時間の弾力的運用等により、さらに効率の高い授業を目指していきたい。

### ②評価方法の明確化

これまで、観点別目標に即した評価の工夫をし、ワークシート・座席表を利用した見つけカード・自己評価のふりかえりカード・感想文等で評価してきたが、これが最もよい方法であるのか、また、どんな評価の組み合わせが有効なのかを追求していきたい。

### ③物的環境や人的環境の見直し

子どもの学習意欲は、よりよい算数的環境によって高められる。教材・教具の整備をさらに進めていきたい。また、学級経営を見直し、さらに子どもの個性を育てるものにしていきたい。

# 相互活動を生かした道徳の授業

道徳と学級経営

春日井市立牛山小学校

小河 直子

## 1. はじめに

「道徳の授業を行っても子どもが少しも良くなれない。」という話をよく聞か、子供の実践につながる手立てがうたれていないことに原因があると思う。心の弱さに負けるのが人の心であるならば、それをよしとしないのも人の心である。子ども同士、互に密接につながりを持って暮らす中には、様々な問題が発生する。トラブルが起きた時にこそ役立つのが道徳の授業である。

そこで、クラス一人一人の児童を追跡し、個性を把握した学級経営を行い実践への手立てとした。

「豊かな心を持ちたくましく生きる子」を育てるために、道徳の授業を充実させ、全員リーダー制を活発にし、多様な体験を生み出させてきた。

## 2. 目標と方法

(1) 個への対応を生かした道徳の授業を行う。

意図的指名を授業の中に計画する。

児童に自己評価をさせる。

(2) 一人一人の児童の理解を深める。

座席表による追跡 連絡帳による個別の対応

(3) 互いの長所に気づき、認め合い、尊重し合う人間関係を築き上げる。

全ての児童に、個性に応じた活躍の場を開発する。(全員リーダー制)

## 3. 実態

● 内気で活力の乏しい児童が多い。

(入り授業の教師から)

● 友人関係で悩んでいる児童が多い。

(アンケートから)

● 女子の小グループかが進んでいる。

## 4. 実践

(1) 実践に繋がる道徳の授業

授業の中で児童を生き生きさせるには、一人一人を生かした授業を組織しなければならない。持上がりでしかも、26人という小人数のため、児童をより深く把握できる。そこで、「個への対応」を生かした道徳の授業を実践してきた。

日頃の深い児童把握が、授業に・学級経営に・生き実践に繋がっていった。

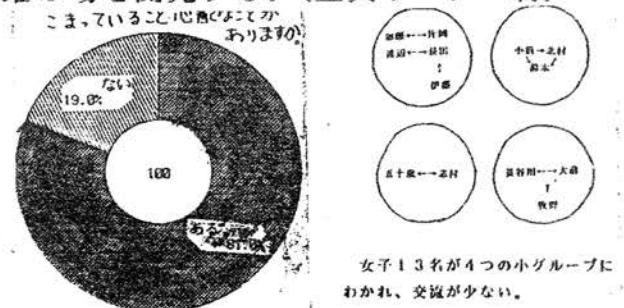
① 意図的指名を指導過程の中に組み込む。

ア 学級の多くの考えを代表する児童

イ 本時における高まりを特に期待する児童

ウ 学習の流れを変えたり、考えを高めたりすることが期待できる児童

② 生活を振り返り、自分の考えを明らかにするために自己評価をさせる。



③ 展開後段で、価値観の変容を見るための意図的指名をする。

④ 指導過程の基本形

	指導段階におけるねらい、指導の手だて	個への対応
導 入	☆ 雰囲気づくり、価値への方向づけ 中心資料につながるものを提示する。 価値にかかわる生活体験の掘り起こしをする。 (小集団で話し合う)	一人一人の考えを 反映させるため、班 で話し合わせる。
展 開 前 段	☆ 資料をとらえる。 資料提示を工夫する。 紙芝居 写真 場面絵 その他 基本発問で、状況や条件を押さえる。 中心発問で多様な感じ方、考え方を引き出さ せる。  発問などにより、より高い価値を感得させる  ための意図的指名(ウ)	多様な考えを出さ せるための意図的指 名 (ア) (イ) (ウ) 友達の意見を聞自 分と比べさせる。 理由づけや友達の 意見を交換させる。 より高い価値観を 出させる。
展 開 後 段	☆ 高められた価値観に照らしての価値の内面化 今までの自分の生活を振り返らせる。 (ア) (イ) 学年で考えた円による自己評価をさせる。 行為だけでなく、心情、判断までノートに 書かせる。 日頃の学級経営の児童把握を生かして、変容 を期待する子に指名をする。	価値観の変容を見 るための意図的指名
終 末	☆ 価値への関心の継続を図る。 教師の話 児童作文 父母からの手紙 ことわざや格言	一人一人の追跡表 から、良さに注目さ せる。



第6学年 道徳年間計画

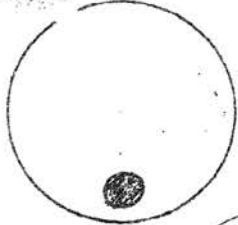
	内容番号	指導内容	資料名	出典	備考
4	1-(1)	思慮反省節度節制	グライダー飛び	明るい心	
	4-(1)	社会的役割と責任	合唱コンクール	明るい心	
5	4-(2)	公德心 遵法 権利義務	みんなのために	明るい心	
	1-(2)	希望勇気不撓不屈	二重とびへの挑戦	明るい心	
	3-(2)	生命尊重	猛火の中で	明るい心	
6	4-(4)	勤労社会奉仕	遊び場づくり	明るい心	
	1-(3)	自由、規律(新)	給食の時間	明るい心	
	2-(2)	思いやり、親切	ある駅での出来事	明るい心	
	4-(1)	社会的役割と責任	飼育当番	明るい心	
7	3-(1)	自然愛、環境保全	ひとふみ十年	明るい心	
	2-(4)	寛容、謙虚(新)	すれちがい	明るい心	
9	3-(3)	敬けん	どうしてもだせない あの色	明るい心	
	4-(4)	勤労、社会奉仕	土に生きる母	文部省道徳	資料とその利用2
	1-(5)	創意進取	乗越の堤防	#	
10	2-(2)	思いやり、親切	歩道橋	明るい心	
	4-(2)	公德心 遵法 権利義務	務 大王と風車ごや	教育出版	私たちの道
	4-(8)	国際理解、親善	祝福がありますように	明るい心	
	1-(3)	自由、規律	自分勝手	教育出版	私たちの道
11	2-(3)	友情信頼男女理解 協力	特訓	明るい心	
	4-(3)	公平、公正、正義	ぼくはこうかいしない	明るい心	
	3-(6)	敬けん、畏けい	青の洞門	視聴覚教材	
	4-(7)	郷土愛、愛国心	瀬戸の明日のために	明るい心	
12	4-(2)	自然愛 環境保全	視聴覚教材	明るい心	
	1-(4)	誠実、明朗	水曜日のテスト	明るい心	
	1-(5)	創意、進取	あばれ川	明るい心	
1	4-(5)	家族愛	お母さん	明るい心	
	1-(2)	希望勇気不撓不屈	勇気と言うこと	教育出版	わたしたちの道
	2-(5)	尊敬、感謝	山をたのむ	明るい心	
2	4-(8)	国際理解親善	一人一人の人間	教育出版	わたしたちの道
	1-(1)	節度節制思慮反省	折れた表紙	教育出版	わたしたちの道
	2-(2)	思いやり、親切	もう一つの親切	教育出版	わたしたちの道
	3-(2)	生命尊重	命ってなあに	教育出版	わたしたちの道
3	2-(4)	寛容謙虚	広い心で	教育出版	わたしたちの道
	1-(6)	向上心、個性伸張	サルとねる少年	明るい心	

道徳の授業の話

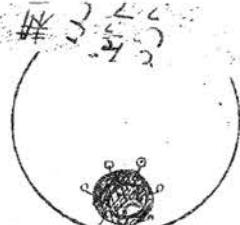
道徳の授業の最後の5分間に、親切にしてくれたことや、物を大切にしたこと、がんばったこと、など心に残った経験を話してあります。が、私の楽しい経験では限りもあります。ぜひ、体験談をお寄せ下さい。 小河 (友情・正しい判断・美しい事・大切なもの・努力など) 高橋時代の思い出です。私は小学時代の、中学校時代の引込み思案で、授業中に発表する北谷は犬の苦手で、国語の時間に一人で教科書を読んでいる時は、ドキキして心臓が止まりそうでした。こんな私が、思い出しでも不思議なのですが、高校一年生の時、植内討論大会のクラス代表に選ばれました。むりやりに「私は北谷は出来ません」と泣きたい思いで断ったのですが、ダメでした。仕方なく原稿を書いたのですが、朝には北谷に細く学校に行くのが、気が重くなってしまいました。でも、この原稿が、私にとって忘れられない思い出です。 北谷は、毎月、原稿を読まないと練習が始まりました。少し慣れできて国語の授業中、又ホームルームの時間に、クラスの皆が聞いてもらって、悪い所を直して貰いました。その原稿が、クラスの友達、6人が、授業後も遅くまで残って、屋上で練習する私を励まし、続けてくれました。 園にいくいとろを指摘してくれたい。うまくいけば、相手して

くかました。皆に支えられ、私も必死に志を達しました。はい、討論大会の当日がきました。なにしろ初めてのことです。 講師一歩の犬勢の人を見て足がすくむ思いでした。 失敗も、北谷が無事に終るまでかちかちでした。 本番には、北谷と同じように北谷も言えたいくらいに緊張して、おまけに泣きました。 皆もみてくれるよでした。 かくかく思うのです。人の前で話すのが犬の苦手で、又、北谷は絶対にできなと思っていて、この時に、無事できたという北谷は、先生はじめ、クラス全員が協力があったからです。人の北谷、自分へのために、心をこめて、力を尽してくれたから、できたのです。私はこの北谷に、いつの日か、感謝を忘れずに、いたいたいと思います。 今後は、北谷の練習を、楽しく、すてきな思い出です。

志村尚子



けんかたつてしたし、もうすぐでせう、こ  
うかなと思っても、まだいられたこと、しよ  
るけれど、相手が先にいって、ごめんね  
といふので「やっぱり友達だね」と思っ  
て、仲直りをして、けんかをして、ま  
ま、仲直りする。  
私は、3人の人と、一年のときから、ずい  
ぶん、文通をして、います。



けんかたつてしたし、もうすぐでせう、こ  
うかなと思っても、まだいられたこと、しよ  
るけれど、相手が先にいって、ごめんね  
といふので「やっぱり友達だね」と思っ  
て、仲直りをして、けんかをして、ま  
ま、仲直りする。  
私は、3人の人と、一年のときから、ずい  
ぶん、文通をして、います。

1. 主題名「合唱コンクール」(4-1 社会的役割の自覚と責任)

2. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

私たちは、それぞれにいくつかの集団に属している。職場、学校、家庭等がそれにあたり、その中で自分の役割を果たすことで、満足感が生れ、その集団に対する帰属意識が芽生えてくる。

児童も、学校という集団の中で生活している。そしてその中で、部活動、委員会、クラブという集団にも参加している。高学年になると所属する集団も増えてき、そこで果たさなければならない役割も多くなってくる。様々な集団で責任を果たし、満足を得ることは児童自身の個性を生かし、伸ばし、満足を得る上でとても重要なことである。そればかりでなく、社会の一員として、必要な力でもある。

(2) 資料について

真理子は友達の誘いで、合唱部の入部する。家族旅行を止めてまで、練習に励んだコンクールに出場することになる。が、真理子を誘った2人の友達は出場できず、彼女らに「まさかコンクールに出場するつもりじゃないでしょうね」と、言われる。真理子の心は、友達との仲を保ちたいという気持ちと、合唱コンクールに参加して自分の役割を果たしたいという気持ちの間でゆれる。悩んだあげく、真理子はコンクールに出場し、精一杯歌って満足感を得る。

当学級の児童も、6年生になって様々な活躍の場が回ってきている。体験を通して充実感を学ばせることは、児童一人一人に希望と自信を与え、間近に迫った中学校生活を自ら切り開いていく上での生きて働く力になると考え、この時期の児童にふさわしい資料である。

3. ねらい

他人の言動に左右されず、自己の役割を果たし、責任を果たそうとする気持ちを高める。

自分の考えを明確に持ち、友達の考えと比較し、更に、自分の考えを深めることができる。

4. 準備 教 読物「合唱コンクール」、振り省りプリント、TP、OHP  
フラッシュカード、場面絵1-3

5. 指導過程

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 人	1 人の言動につられて失敗した経験を発表し合う。	◦ 誰もがやっけてしまいがちなことに気づかせる。 ◦ 価値の方向づけをする。
	2 資料を読み話し合う。 △ 主人公真理子の気持ちの変化に注目して読みましょう。	

展

△ 3人とも合唱部に入部できた時、真理子はどんな気持ちだったでしょう。

- ・ 3人とも一緒によかった。
- ・ 3人で頑張ろう。

△ 真理子はどんなふうに頑張って練習しましたか。

- ・ 3人で誘い合って、精一杯練習に参加した。
- ・ 一日も休まず練習に参加した。
- ・ 父や母にすまないと思って練習に参加した。

開

△ 一人だけ、コンクールの出場者に選ばれた真理子は、どんな気持ちだったでしょう。

- ・ 里美や千都にすまない。
- ・ 家族旅行を取り止めてまで練習したかいが合った。
- ・ 里美や千都に何か言われるのではないか。

前

△ 里美に「まさかコンクールに出るつもりじゃないでしょうね」と言われた時真理子はどんな気持ちだったでしょう。

- ・ コンクールに出ると、もう友達でなくなるかもしれない
- ・ 私も合格しなければ良かった。

段

▲ 出場を迷っていた真理子が、会場に飛び込んだのはどうしてでしょう。

- ・ 夏休みも頑張ったから。
- ・ 父や母に申し訳ないから。
- ・ 合唱部のみんなが困るから
- ・ 出場を止めると責任が果せない。

○ カード1、2を提示して話し合いの中心になるところを知らせる。

○ あこがれの合唱部に入部できたことだけでなく、3人一緒に入部できた喜びが大きいことに気づかせる。

○ 夏休みの旅行を取り止めてまで練習に参加した真理子と、時々練習を休んだ里美たちと比較して考えさせる。

○ ア、イ、ウの児童を指名し、多様な考えを引き出す。

○ 他人の言動に左右されないで、自分の役割を自覚し責任を果すことの大切をとらえさせる。  
(価値の把握)

展

3 自分の生活体験を振り返る。

△ 今まで自分は、責任を果して

開 後 段	きたでしようか。丸の中に自分責任の大きさを書きましょう。学級、クラブ、委員会に中で自分の責任を果たしたことを書きましょう。その訳も書きましょう。 △ 発表しましょう。	今までの自分の生活を振り返ることができたか。 (振り返りプリント) 価値の変容を見るために意図的指名をする。 ア、イ、ウの児童を指名する
終 末	4 価値への関心継続化を図る。 △ こんな話がありました。静かに聞きましょう。	自分の役割を自覚し、責任を果たした児童の話聞く。

6. 座席表

児童の実態を把握し、一人一人を大切にするための工夫  
 児童のもつ価値観を見ると実に多様であり、十人十色である。一人一人の児童の成育歴や経験の多少性格等を考えれば、これは当然のことであり、この個人差は、決して道徳の授業をやりにくくするものではない。むしろこの個人差を生かすことによって、どの児童もその児童なりの姿で授業に参加することができ、お互の異なる価値観に触れることによって児童は自己のもつ価値観を補充、深化統合していくことができる。

そこで、教師は、授業の計画を立てていく段階で、一人一人の児童のねらいとする価値に対する実態を十分把握しておかなければならない。座席表は授業の中で意図的指名を行うために有効に働く。

- |   |   |
|---|---|
| アンケートの結果…片仮名<br>教師の観察…ひらがな<br>漢字…男子 ひらがな…女子 | ㊦ 学級の多くの考えを代表する児童<br>㊧ 本時における高まりを特に期待する児童<br>㊨ 学習の流れを変えたり、考えを高めたりすることが期待できる児童 |
|---|---|

教卓

山田 アウアイ ①	しばた アアアウ ㊦	松本 イアイイ ①	きたむら ウアウイ ㊦	板垣 イウウイ ①	いながき(ク) ウアウウ ①
もりなが ②	三輪 ②抽出児童	ゆみた ②	鎌田 ㊦	うかい ㊦	中野 ㊦

(2) 個性に応じた場を開発する

- ① 全員リーダー（一人で2つの班長）  
 生活班…連絡、そうじ、給食、生活  
 学習班…国語、社会、算数、理科、  
 それぞれが、一日の生活、学習の中  
 でリーダーでありフロンターである。  
 そのため活躍の場が多くなる。  
 班という集団で学び合うことの良さは、  
 自分の狭い考えに固執することなく、多  
 様な考えを知り、迷い、考え直し、さらに  
 一段高い考えに練り上げていけることである。  
 日直、給食当番、清掃、学級文集  
 小集団による学習活動を通して、互い  
 に認め合い助け合うより良い仲間を育てる。

- ② 呼びかける係活動  
 協力して進めることを体験を  
 通して学ぶ場とする。  
 週1回の係給食  
 呼びかける楽しさ、  
 聞いて貰う楽しさが生れる。  
 係活動を通して、一層みんなが便利に  
 なったり、快適になる活動を生み出させていく。  
 「全体のために自分は何ができるか」を考えさせながら実践させる。  
 その中で充実感を味わい、クラスの一員としての自信が生れる。

成果

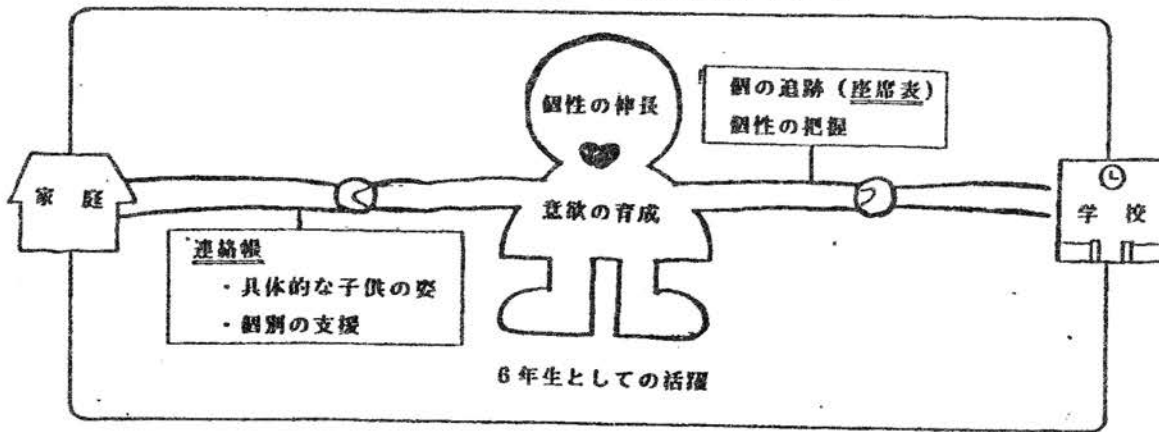
- ★ 民主的な集団を育てる基礎である、聞き合う人間関係を  
 育てることができる。
- ★ 子供同士の認め合いが生れ、「価値ある自分」  
 「人の役に立つ人間」であることを自覚させるこ  
 とができる。

(3) 一人一人の理解を深める

- ① 2での活躍を座席表で追跡  
 連絡帳で個別に支援をする。  
 活躍のなかった空欄の児童には、活躍の場を与えて行く。
- ② 連絡帳の充実  
 保護者は、子供を通して学校を見つ詰めている。学校での子供の活躍  
 を通して家庭と連携することができる。道徳は、家庭の協力を得て初め  
 て実を結ぶものとする。家庭における子供の見方を知ることは、子供  
 の個性を捉える上でも重要である。子供の良さを通しての連携への発展  
 が可能になる。

係 反省 表				
11月 11日 計画		美化係		
今日	日 曜	活 動 内 容	活 動 者	活 動 時 間
週 の 活 動	14日	22727 カード	石川 三好	給〜?
	17日	22727 カード	五十嵐 三好	給〜?
	11日	22727 カード	三好 石川	給〜?
	12日	22727 カード	石川 三好	給〜?
	15日	22727 カード	三好 三好	給〜?
	17日	22727 カード	三好 三好	給〜?
1週間振り返り		先生より		
カードをくくると		三好さん		
カードをくくると		三好さん		

たくましく心豊かな子



連絡帳の充実

**4/15**  
 掃除の具 水入れ 小さい えんぜん  
 わりはし (ランドセルの甲にいれておく事)  
 赤い実 はしけりあすし  
 ⑭日  
 下級生が 天竺 発表したので

**4/16**  
 掃除の具 水入れ 小さい えんぜん  
 わりはし (ランドセルの甲にいれておく事)  
 赤い実 はしけりあすし

⑭日 日記  
 (資料4)  
 同じ班の見学の所まの連絡に保護者がこたえた。

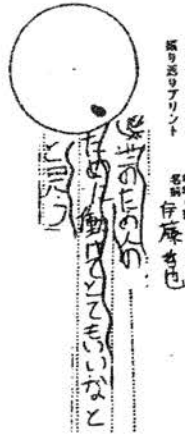
〇四年一月十日 (資料乙)

昨日は一日中 読者がきつくと食はちにく  
 行くすと 食べていさした 今朝は 読者  
 再びきつたが 昨日はきつた フラッシュしてきつた  
 合はれ 味よきです。 ようやく お強いのよです  
 大栄のいコメント ありがとうございます  
 読者、ニつとみえて見えました  
 読者の、なまです。 書いてあてにしました  
 一ご声、ありがとう。 ありがとうございます  
 今日、口疲 忍えし ぶんかです。 敬空々と  
 寒です。  
 昨日は ニンゴロを教室の中に入りました  
 やめえ。 今朝は 読者、きつた。 ようやく  
 安心してです。

今日の全校集会が、はじめと、おわり、  
 要とい、は、はじめの言葉、も、ま、お、わ、り、の、  
 言葉、が、お、お、お、の、言葉、は、さ、い、し、  
 が、声、が、小、さい、と、想、を、う、し、て、い、た、か、ら、い、し、  
 さい、み、た、な、こ、と、お、お、お、の、お、お、お、の、  
 すが、歌、う、て、い、る、の、と、き、い、て、い、た、か、ら、い、し、  
 すが、歌、う、て、い、る、の、と、き、い、て、い、た、か、ら、い、し、  
 すが、歌、う、て、い、る、の、と、き、い、て、い、た、か、ら、い、し、  
 すが、歌、う、て、い、る、の、と、き、い、て、い、た、か、ら、い、し、

◎ I男の場合

道徳で学んだ価値は、地域へ広がり、生き方を深めるものへと発展させなければならぬ。



座席表

4/7 ~ 4/18

大浜	若田 学級委員を 任せておいて 自由活動で 楽しんでいる	小島 運動会では 走り高跳びで 活躍した	小浜	林 勇 運動会では 走り高跳びで 活躍した
村上 学級委員を 任せておいて 楽しんでいる	大前 学級委員を 任せておいて 楽しんでいる	加藤 運動会では 走り高跳びで 活躍した	大前 学級委員を 任せておいて 楽しんでいる	竹内 運動会では 走り高跳びで 活躍した
伊藤	五十嵐 学級委員を 任せておいて 楽しんでいる	川岡 運動会では 走り高跳びで 活躍した	加藤 運動会では 走り高跳びで 活躍した	金澤 運動会では 走り高跳びで 活躍した
石川	伊東 学級委員を 任せておいて 楽しんでいる	川岡 運動会では 走り高跳びで 活躍した	加藤 運動会では 走り高跳びで 活躍した	金澤 運動会では 走り高跳びで 活躍した

学級の中で全員リーダーを行ってきたためみんなの中で役にたつ自分を発見できる喜びを知った。

このことは、6年生になった時に、全校のみんなにと輪が広がってきた。

伊藤 1/2  
大きな運動会  
絵をきかんと考へ  
出して喜ぶ(発表  
会時)

伊藤 1/7  
委員会では生活  
の様子を  
いばっている(表彰  
会時)

伊藤 1/2  
発表回数が多い  
1日に7回

「はくしゅうして」  
と、言ったりはくしゅうして  
そのことを、光田先生に言いに  
光田先生は「おめでとう」  
と、言ってくれたので  
「LOVE」  
と、言ったので  
「LOVE」  
と、言ったので  
「LOVE」  
と、言ったので



運動会の入場レッパのとき  
「はくしゅうして」  
と、言ったりはくしゅうして  
そのことを、光田先生に言いに  
光田先生は「おめでとう」  
と、言ってくれたので  
「LOVE」  
と、言ったので  
「LOVE」  
と、言ったので  
「LOVE」  
と、言ったので

川岡 1/5  
学級委員に立候補  
体育委員長になる

川岡 1/10  
とりの無口では  
協力して学習できる

川岡 1/24  
1年生の子に親切  
との報告(村先生)

川岡 10/20  
修学旅行の表紙  
に選ばれた。

4. 終わりに

一人一人の良さを生かし学級経営を行い、道徳の実践の場を開発していきたい。そのことは児童の良さを更に伸ばすものである。児童は、互に支え合い成長することの大きさをこの実践で学んだ。今後も、児童を生き生きと活動させられる教師でありたい。



## 第27回全国バス学習研究大会

# 教科における個を大切にするバス学習

岐阜県土岐市土岐市立泉中学校  
鈴木 敏史

### 1 本校における生活バスのあり方

#### 生活バス

本校において生活バスと学習バスの二種類のことを大きくバスと呼んでいる生活バスでは、

少人数という心理的に各人の要求が容易に出されやすい場において

- ・生徒一人がまずありのままの自分の要求や意見を出し合える。
- ・その要求や意見を土台にして、共感や協力や相互点検の経験が積み上げられる。
- ・小集団の中で与えられる地位と役割と責任が、生徒個人としての行動のあり方として主体的に自覚される。
- ・自分や自分たちの生活をよりよいものにしていこうとすることを主体的に行い、その能力をつけていくものと考えられる。

この生活バスは、一日の中で二回ある。

一つは、清掃時の開始バス・終了バス。もう一つは、帰りの会での生バス。

ここに二つの生活バスを紹介します。

#### ①清掃時の開始バス

班長 「これから、掃除をはじめます。きのうは、私語が〇、頭覆いが〇、時間までしっかりできたが〇、後片付けが×、…でした。今日の目当ては、何がよいと思いますか。」

A君 「昨日は、後片付けが×だったし、ずっと100%達成していないので、今日の目当ては100%達成がよいです。」

班長 「他にありませんか。」

班員 「……」

班長 「他にないようですので、今日の目当ては100%達成にします。しっかり頑張ってください。」

班員 「おねがいします。」

#### 清掃時の終了バス

班長 「これから、終了バスをはじめます。」

班員 「はじめます。」

班長 「今日の反省を言ってもらいます。まず、点検報告をお願いします。」

清掃委員 「今日は、みんな私語もなく一生懸命頑張っていました。特に〇〇君は、開まで雑巾掛けをしていて良かったです。誉めてあげてください。」

班員 「拍手」

清掃委員 「でも、100%達成は出来ませんでした。後片付けで雑巾が整頓されていませんでした。」

班長 「では、反省を言ってください。」

B子 「今日も昨日と同じところが×でした。明日は、雑巾は雑巾の係でほうきはほうきの係で責任を持って後片付けをしつらいと思います。終りに班長に確認してもらったらどうですか。」

C子 「賛成です。□□君のようにみんなも一生懸命に掃除をしているし、あと少して100%達成できるんだから。」

班長 「今、B子さんとC子さんからの提案についてどうですか」

班員 「賛成です。」

班長 「では、明日こそ100%達成を目指して頑張りましょう。それと、今日頑張った□□君を誉めてあげましょう。」

班員 「拍手」

班長 「これで、今日の清掃は終わります。」

班員 「ありがとうございました。」

## ② 帰りの会の生バス

黙考 {朝の会で日直から提案された本日の目当てについて各自が振り返る。}

黙書 {自分の考えを三作リノート(目当てづくり・仲間づくり・自分づくり)に書くことによって自分をみつめる。}

ここまでは、自主的に活動していく。

### 生バス

日直 「これからバスを行なってください。今日のテーマは、『学習中私語をしないです』バス隊型になって下さい。フリー討議で。」

#### 4グループ

班長 「学習中私語をしないが今日のテーマですが、みんな今日を振り返ってどうでしたか。F男君」

F男 「ぼくは、数学の時間に少し私語をしてしまいました。でも、班長が注意してくれたので、すぐに思い出してやめました。自分では、意識しているつもりなんです、すぐ忘れてしまうので注意してくれると助かります。」

Y男 「ぼくもF男君と同じで、つい忘れてしまうというが調子に乗ってしまうとかすぐに私語をしてしまいます。」

T子 「Y男君は注意をしても聞いてくれません。逆にいらまされました。こういうことは、おかしいと思います。」

班長 「Y男君どうですか。」

Y男 「そりゃそうだけど…。」

T子 「Y男君のようなことをされると私語はいつまでたっても治らないし、私たちも注意をしにくくなります。」

F男 「T子さんの言っていること分かりますが、しゃべるとおもしろいし途中でやめたくないときもあるし。でも、やっぱりやめたほうがいいんだよね。何を言っているか分からなくなっちゃったけど。とにかく私語は、いけないことはいけないんだよね。」

Y男 「頭では、分かるんだけど。」

班長 「今日のテーマが私語をしないでT子さんはY男君に注意したのに、逆に怒られるのはやっぱりおかしいと思います。いけないことをしているのは、Y男君なんだから、いけないことはいけないと素直に認めて下さい。特に男子が調子にのって私語をしてしまうようです。気を付けて下さい。」

Y男・F男 「はい。」

班長 「やっぱりみんなですべて守っていきなさいT子さんは、いい事してくれたので誉めてあげましょう。」 拍手

その後、点検項目について振り返る。

日直 「バスをやめてください。話し合ったことを発表してもらいます。4グループと6グループと8グループは、今日の目当てについて発表して下さい。1・2グループは、点検項目について発表して下さい。」

以上のような認め励ましというような過程を通して、信頼に支えられた人間関係の確立のうえに、学習バスの成立があると考えられる。

## 2 研究のねらい

本校では、長年バズ学習を導入し、統合の時間に特設バズを位置付け、また教科学習において教科内バズを位置付け、学校目標の達成につとめてきた。この実践の中で、互いの良さを認め励ましあう学習の姿など、協調性や協力性といった面での耕しができたことを成果として認めあってきた。

しかし他方で

(a)仲間との追求の中で、一つの発言が出るとそれに流されてしまう依存的な姿がみられる。

(b)一人一人が学習者として課題解決に向かう姿が乏しい。

といった個としての弱さが、目に付くようになってきた。

数学における生徒の実態としても

(c)課題に対してあきらめが早く、自ら深く考えようとする姿が乏しい。

(d)既習事項を生かして、課題に取り組む姿が乏しい。

(e)教え合ったり質問し合ったりして、仲間同士で高まろうとする姿が弱い。

ここでも、個としての弱さが浮き彫りになっている。

これらの実態は、これまでの授業における教師側の姿勢にも原因があったと考える。なぜならば、教科内バズにおいて方法論に偏っていたために、個のあり方がおさなりになってきたためであるからだと思われる。

そこで、今一度原点に戻り、教師が生徒一人一人に目を向け、自分の意見を大切に出来る生徒の研究を進めてみようと考えた。

## 3 研究の方法 - 内容

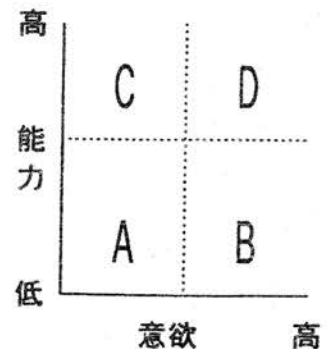
### (1) 生徒一人一人をつかむ工夫

一斉授業の中において、教師側は中レベルに視点を当てて進める事が多いため、時には低次の生徒を見捨ててしまっていたり、高次の生徒にとってはたいくつ極まりない授業になってしまうことがある。

生徒が自ら学び、進んで学習し続ける力を高めるには、生徒が課題を追求し達成しようとする時につきあたるつまずきを克服していくことが大切である。そこで、まず一人一人がどのようなつまずきを示しているのかを的確にとらえそのつまずきに対して、指導のてだてや配慮を工夫していくことが必要であると考えた。

① 生徒理解をタイプ別（似た性質を持った大きなかたまり）にとらえることにより、指導の手だてを具体的にしようと考えた。

分類する2つの尺度として「関心・意欲」と「能力」で右の図のように4タイプに分類した。 実態(b)(c)(d)



- A…意欲も低く能力も低い生徒  
 B…意欲はあるのだが、能力が伸びない生徒  
 C…能力はあるのだが、意欲的に参加しない生徒  
 D…意欲的に取り組み、能力も身に付いている生徒

② 数学におけるバズ学習の方法の検討。学習形態は、ほとんどが教師対生徒という関係で進められる。学習の援助者は教師であるということは前提ではあるが、生徒の相互の力の働き合いを重視し、それを有効に活用することが大切であると考えた、バズ学習の位置付け。 実態(a)(e)

バズの種類	目的及び内容	方法及び留意点
発見バズ	《課題についての既習事項を見付ける》 課題に対しての既習事項を個人で考えノートに記述した事柄を交流することにより、よりよい解法を見付ける。	〈方法〉学習リーダーが輪番法によりひとりひとりの意見を出させ共通点を明確にする。 〈留意点〉 ・どのタイプにおいても解けそうな問題。 ・ノートに自分の考えをしっかりと書かせる。 ・タイプAを特に留意する。
補強バズ	《課題追求を深める》 自分の考えを足場にして、意見を交流することにより、自分の考えを修正したり深めたりする。	〈方法〉班長が中心となり自分が分かっているところまでを交流し合い解を導きだす。 〈留意点〉 ・タイプA・B ヒントカード等を与え自分の足場づくりの手だての援助をする。 ・タイプC・D このタイプが最初に発表してしまうとA・Bが遠慮してしまう。バズの進め方を指導。
練習バズ	《知識の習得》 解法や解を確かめ合う中で、教え合い励まし合いながら効果的に学習する。	〈方法〉班長が中心となり自分で出来ているところを発表していく 〈留意点〉 理解の不十分な生徒には、理解できた生徒に教えさせる。

#### 4 実践の報告

(1) 単元名 一次関数

- (2) 単元目標
- ・具体的な事象における変化の考察を通して、関数関係についての理解を更に深めることができる。
  - ・一次関数のとる値の変化の割合とグラフの特徴について理解する
  - ・二元一次方程式は一次関数としてみる事ができるので、グラフから連立方程式の解を求めることができる。

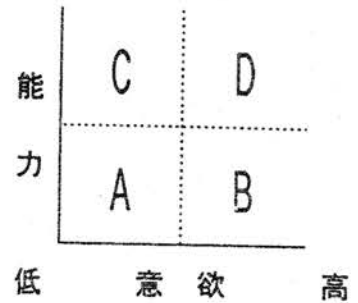
(3) 本時の目標

- ・ともなって変わる二つの数量  $x$ 、 $y$  には、 $y = ax + b$  で表すことが出来るものがあり、これを一次関数ということがわかる。

(4) 生徒一人一人をつかむ工夫

① タイプ別指導 (本時に関わって)

レディネステストの結果から、正比例に関して理解している者とそうでない者との差がはっきりしていることが分かった。同じスタートラインに立たせることは無理だとしても、生徒の学習意欲と能力を4つのタイプに分けてとらえて、タイプに応じた指導に取り組んでいきたい。



本時では

- ・能力を、二つの数量関係を表にしたり、式にしたりする力。
- ・意欲を、自ら進んで考えようとしている(挙手発言、宿題をやっているか)態度

	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	Dタイプ
本時	表を作る時つまづく。式化が出来ない。自ら分かるようと努力しない。	表を作る時つまづく。式化が出来ない。自ら分かるようと努力出来る。	表は完成出来る。式化出来る。自分の考えを発表することが少ない。	表は完成できる。自分の力で式化出来る。自分の考えを発表できる。
単元	比例問題に対する意欲が低く、能力も低い生徒	比例に対する意欲は高いが、能力が低い生徒。	能力はあるのだが、意欲的に参加しない生徒。	意欲的に取り組み、能力も身に付いている生徒。
手立て	能力面の援助法としては、ヒントカード・バズ学習。 意欲面の援助法として教材・教具の提示。		意欲面の援助法として教材・教具の提示。表の完成場面での意図的指名。	発言の場で、意見を出させて説明させていきたい。
到達目標	比例 $y=ax$ と一次関数 $y=ax+b$ の式の違いについて気付くことが出来る。		既習事項を利用して説明することが出来る。	既習事項を利用して思考過程を明確にし説明することが出来る

②バスを中心とした本時の展開 (補強バス)

教師の動きかけ	予想される生徒の反応	指導上留意すべき点
<p><b>前置</b></p> <p>風呂に入るとお風呂の深さを2倍、3倍にしていく割合で水をいれる時、お風呂の深さを2cmと、お風呂の深さを3cmの割合でいれることを覚えておきたい。</p> <p><b>課題</b></p> <p>お風呂に入るとお風呂の深さを2倍、3倍にしていく割合で水をいれる時、お風呂の深さを2cmと、お風呂の深さを3cmの割合でいれることを覚えておきたい。</p> <p>お風呂に入るとお風呂の深さを2倍、3倍にしていく割合で水をいれる時、お風呂の深さを2cmと、お風呂の深さを3cmの割合でいれることを覚えておきたい。</p> <p>お風呂に入るとお風呂の深さを2倍、3倍にしていく割合で水をいれる時、お風呂の深さを2cmと、お風呂の深さを3cmの割合でいれることを覚えておきたい。</p>	<p>・水の量は、正比例の関係。  <math>y = 2x</math>の式で表される。  <math>y = 3x</math>の式で表される。  <math>x = 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15</math></p> <p>・xの値が2倍、3倍になると、yの値も2倍、3倍になる。  <math>y = 2x</math>の式である。  <math>y = 3x</math>の式である。  <math>x</math>の値が1つ増えれば、yの値も1つ増える。(規則)  <math>x</math>の値が2つ増えれば、yの値も2つ増える。(規則)  <math>x</math>の値が3つ増えれば、yの値も3つ増える。(規則)  <math>x</math>の値が4つ増えれば、yの値も4つ増える。(規則)  <math>x</math>の値が5つ増えれば、yの値も5つ増える。(規則)</p> <p>・xが3分から6分たつ間に、お風呂の深さは6cm深くなっている。  <math>6 - 3 = 3 = 2</math>で一分間に2cmずつ深くなる。          0分の時0cmにならないなんてまちがっているのではないでしようか。3分で9cmなので1分間で9÷3=3cmずつ深くなっている。          6分の時15cmにならないので、やっぱり一分間に2cmずつだと思いません。</p> <p><math>x</math> 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 ...  <math>y</math> 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 ...</p> <p>・これは、正比例の関係の式ではない。  <math>x</math>の値を2倍、3倍...しても、<math>y</math>の値は2倍、3倍...にならない。          グラフは原点を通らない。どちらも同じ割合で増えている。          ・どちらでもxの値が1つ決まるとyの値も1つ決まる。(関数)</p> <p><b>評価問題</b></p> <p>1. 次の式のxが、お風呂の深さを表している。  <math>y = 2x</math>    <math>y = 3x</math>    <math>y = 5x</math>    <math>y = 2/x</math>    <math>y = 3x - 1</math>          2. xの値がお風呂の深さを表している。  <math>x = 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15</math>          立派な関数だよ。          上の式は、お風呂の深さを表している。          下の式は、お風呂の深さを表している。</p>	<p>・手探りな感じがあるが、前置問題を通じて、バスの深さを2倍、3倍にしていく割合で水をいれる時、お風呂の深さを2cmと、お風呂の深さを3cmの割合でいれることを覚えておきたい。          単に覚えている生徒          KAG SKG EKG TFG KKG SHG YKG          教具を提示することにより、タイプA-Cに興味関心を持たせる。</p> <p><b>課題提示</b></p> <p>タイプA-B...ヒントカードを。一分間に何cmずつ深くなっているか自分で解く。          タイプC-D...一分間に何cm深くなっているか、自分で見つけ方が完成できる。</p> <p>・式の完成、式を考えだすのはバス学習の利用。          タイプA-B...わかるところまで聞こうとする姿勢が、育ってきているか。          タイプC...前向きな姿勢で学習に参加しているか。          ・グラフに関しては、後で学習するので本時では、詳しく扱わない。</p> <p><b>評価問題</b></p> <p>タイプA-B...全問正解を目標とする。          タイプC...全問正解を目標とする。</p>

問題 No.1

A917°

お風呂に一定の割合で水を入れていきます。  
 3分後に深さを測ると9cm  
 6分後に深さを測ると15cmでした。



水を入れるときの時間をx分  
 お風呂の深さをy cmとし  
yとxの式で表せ。

まずは表を完成しよう

時間x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
風呂の深さy (cm)	0	3	5	7	9	11	13	15	17	19	21	23

最初は時間が0の時に風呂の深さが0cmでしたら後の答えがわからなくなってしまうのでヒントカードを見た一分間で何cm深くなっているかを考えてみる。最初3cm入ったことがわかって、その量も入れなければいけないことがわかりました。  
 $y = 2x + 3$

ヒントカード No.1

注目 3分の時 9cm 6分の時 15cm ですか。  
 では? 一分間で何cm深くなっていますか。

時間x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
風呂の深さy (cm)	3	5	7	9	11	13	15	17	19	21

この部分

$y = 2x + 3$

まとめ

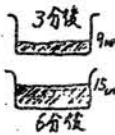
$y = ax + b$  (a, bは定数) yがxの一次式で表されるaをこれを一次関数という。y=ax(正比例)はb=0aの場合の一次関数。特別な場合である。

いつもバズになると、聞いているだけでしたが、分からないところは、分からないって平気で言えるし、一生懸命教えてくれるのでうれしい。今日のようにヒントカードがあると、私でも出来そうだとか、それに今日はバズで最初に説明が出来たし、みんなが分かったよって言ってくれた時はうれしかった。

お風呂に一定の割合で水を入れていきます。

3分後に深さを測ったとき 9cm

6分後に深さを測ったとき 15cm でした。



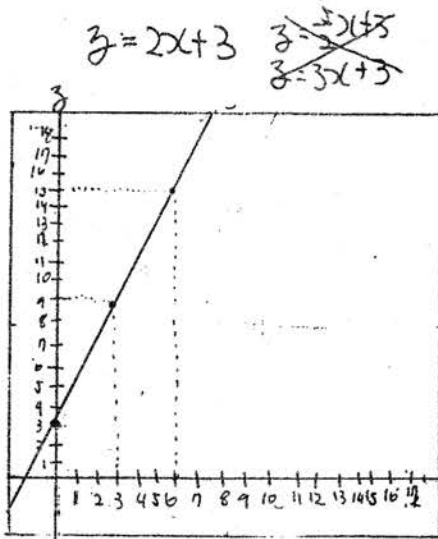
水を入れるときの時間を  $x$  分

お風呂の深さを  $y$  cm とし

$y$  と  $x$  の式で表せ。

まずは表を作成しよう

時間 $x$	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	...
風呂の深さ $y$ (cm)		3	6	9	12	15	18	21	24	27	30	33	...



一定の割合で変化をしている。だからグラフは直線だろう。と思う。表を見ると0分のとき3cm、3分後の時9cm、6分後の時は15cmという点をグラフに記入してそれらの点を直線で結ぶとグラフが書ける。グラフを見て表を作る。

バズ学習を通しての生徒の感想

自分の考え方は、バズになった時にみんなと全然違うなと思いました。でも、この考え方で自分は出来たので、なんとかしてみんなに分かってもらいたくなってきた。でも、考え方が違うのでなかなかみんなに分かってもらえなくて、特に、H子さんはグラフなんかならっていないんだからと言って全然ぼくの説明を聞いてくれようとしなかった時は、少し腹が立った。でも、頑張って話しているうちに分かってくれて、「すごーい」って言われた時はすごくうれしかった。

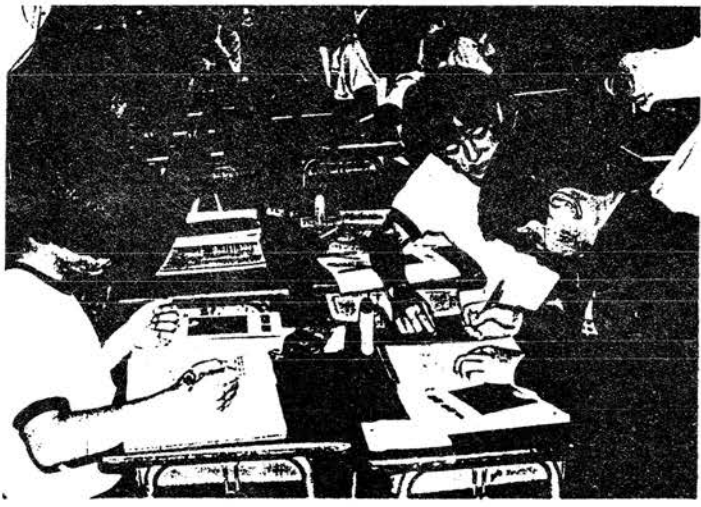


時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	D917°
水量 (cm)	0	2	5	9	14	19	25	31	37	43	49	55	

$y = 2x + 3$   
 1分間は、水量が2cm  
 0分は、水量が3cm  
 入る水の量が一定でなくならない  
 2分は、水量が5cm  
 3分は、水量が9cm  
 4分は、水量が14cm  
 5分は、水量が19cm  
 6分は、水量が25cm  
 7分は、水量が31cm  
 8分は、水量が37cm  
 9分は、水量が43cm  
 10分は、水量が49cm  
 11分は、水量が55cm  
 $9 \div 3 = 3$  時間  $\rightarrow$  3cm  
 $15 \div 3 = 5$  時間  $\rightarrow$  5cm  
 $6 \div 3 = 2$  時間  $\rightarrow$  2cm  
 $12 \div 3 = 4$  時間  $\rightarrow$  4cm

①  $y = ax + b$  (a, bは定数)  
 1. aが0の一次式  $y = b$  は、 $y = a$  の場合  
 一次関数といふ  $y = ax + b$   $b = 0$  の場合  
 場合があり、一次関数の特別な場合である

表を完成するだけですごく時間がかかってしまった。はじめ、ゼロ分の時は絶対にゼロcmだと思っていたので、ゼロを入れると3分までと6分までの入る水の量が一定でなくなってしまうのでイライラとしてしまった。考えれば考えるほど分からなくなってしまった。このままバズをやるのは嫌だなんて思っていたらヒントカードがあったので頼ってしまった。でも、そのカードを見たら今までイライラしていたのがスーッと晴てきて、式は自分の力で見つけてみようという気になってきた。バズの時は、みんなに説明が出来たし、表を作るときに私と同じところで悩んでいたことを知りうれしくなってきた。



## 5 考察

ひとりひとりをつかむ工夫をして指導をしてきた結果、生徒たちのそれぞれの実態について、次のような成果があらわれてきた。

### ①タイプ別指導について

- 成果
- ・生徒理解をタイプ別にとらえることにより、指導の手だてを具体的にすることが出来た。 実態(b)
  - ・積極的に発言する姿が増えてきた。
  - ・手だてにより既習事項を使って見方・考え方を確認することで、課題に対して粘り強く取り組める生徒が増えてきた。 実態(c)(d)

- 課題
- ・生徒は常に成長するし、単元や時間によっても違った姿があるので生徒理解をよりの確な実態把握のあり方を考えていかなければならない。

### ②バズ学習について

- 成果
- ・生徒をタイプ別にとらえていた結果、バズ学習になる前の手だてによりバズに対して意欲的に参加することが出来る生徒が増えてきた 実態(a)
  - ・教師と生徒の間答でなく生徒間の話し合いで(バズ)課題をどうえ解決方法を考え追求していく姿がみられるようになってきた。 実態(a)
  - ・自分の考えを持って参加することにより、一人一人を認め励ます姿がみられ、互いの意欲を高め合うことが出来た。 実態(e)

- 課題
- ・バズ学習を重ねていくと、課題を解決できる生徒とそうでない生徒とに分かれてくる。この両者は、説明する生徒と説明を聞く生徒という関係になり、この関係が信頼関係の上に成り立っているものであり、バズ学習だけでなく学級経営上の人間関係をしっかりと把握してなければならない。
  - ・バズ学習の参加意欲を高めるために、生徒理解をよりの確にするとともに、手だてをより具体的に考えていかなければならない。

研究主題

互いに認め合える学級づくり

- 『X氏からの手紙』の手法を用いて -

春日井市立鷹来中学校

岡田尚之

1 主題設定の理由

本校に赴任して2年目になる。赴任当初は、以前荒れていた学校で、問題行動が多発したと聞いていたので不安でいっぱいであった。

今は比較的落ち着いているのであるが「また、荒れるのではないか。」と脳裏に不安が走ることがある。それは、卒業生がバイクに乗り爆音をあげながら、学校の周りを走り回るときである。以前の荒れていた鷹中の爪あとは、まだまだ深く生徒達に刻み込まれている。

私は、目の前の生徒の実態を見すえ『互いに認め合える力』『自己を高める意欲』をもっと育てたいと考えた。そのために、友達や仲間の「良いところ」や「努力したところ」を相互評価する『X氏からの手紙』という手法を考えた。

行事を学級経営の核とし、道徳や学級活動をそれに必要な価値観や実践的態度を高める場として有機的に結び付け、適切な評価を計画的・継続的にすすめることができれば、生徒を私の理想とする姿に少しでも近づけることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 めざす生徒像・学級像

(1) 生徒が理想とする学級像

私のクラスは、男子17名女子19名の計36名で構成される。生徒は、この2年3組をこの一年間でどんなクラスにしたいと考えているのか。4月当初意識調査をおこなった。この結果「仲の良いクラス」「協力できるクラス」が最も多いことがわかった。

(2) 私が理想とする生徒像

私の理想と考える生徒像は、つぎの3段階に分けられる。

① 他人に迷惑をかけない生徒

自分自身の存在を示すために、人の嫌がることをしたり、現実から逃避したりする生徒を、友達や仲間から認められる場を設けていく中で、他人に迷惑をかけない生徒に変容させたい。

意識調査 (4月8日)

1	2年3組をどんなクラスにたい。	
1	仲のよい	13名
2	協力できる	7名
3	けじめのある	5名
4	楽しい	4名
5	明るい	3名

2 仲のよいクラスとは、どんなイメージですか。(複数解答可)

1	男女の仲がよい	19名
2	協力性がある	19名
3	明るい	9名
4	いじめのない	8名
5	けんかしない	7名
6	助け合える	4名
7	グループをつくらない	4名

## ② 友達の良いところが認められる生徒

相手の悪いことを指摘することは簡単なことである。互いに良いところを認め合える態度を養いたい。

## ③ 自己を高めることができる生徒

友達や仲間の中で、互いに良い面を認め合える態度を育てていく中で、よりよい自分を築いていこうとする意欲を高めたい。

### (3) 学級の実態

理想とは逆に、日常の学級生活の中では、男女の仲が悪かったり、協力しなければならぬときに、わがままで自分勝手な行動が目につく。生徒がイメージした理想と現実の姿の間には、かなりの差がある。(抽出生徒の概要TP参照)

## 3 研究の仮説

### (1) 仮説の設定

本主題にせまるために、次のような研究の仮説を立てた。

行事への取り組みの過程において、互いに認め合う場を設定すれば、他の長所を認める態度が育ち、同時に、自己を高めようとする意欲を育てることができる。

### (2) 仮説の基本的な考え方

#### ① なぜ行事なのか

学校では、1年間にいろいろな行事がおこなわれる。これらの行事をただ終わらせるのではなく、“個や集団のこころを、こう変えよう。”“これを、こう育てよう。”と意識して取り組むことが重要である。友達や仲間とともに活動し体験することは、それぞれの心を揺らし、心に響いて、個や集団を高めるだろう。

行事を実践力や行動力を高める場とし、各行事で培っていききたい課題(望ましい価値観や実践的態度)を、学級活動や道徳の中で関連づけ、計画的・継続的に指導することができれば、生徒の心を育てる有効な手立てとなると考える。

#### ② なぜバズなのか

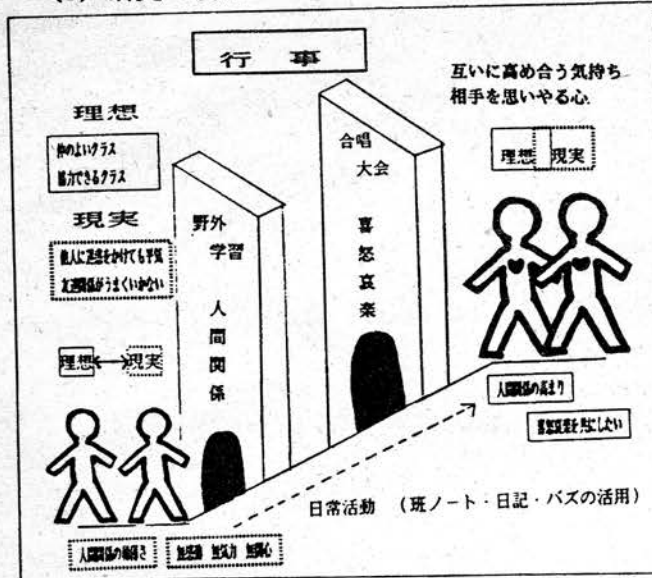
中学生は、親や教師から離れ、自立しようと不安定な時期を過ごす。この時期、最も大きな影響を与えるものが、友達や仲間の影響である。この友達や仲間の励ましや批判の中で、人格的にも鍛えられていく。また、互いにかかわり合って、作りあげていくクラスの雰囲気は、この1年間の学級経営に大きな影響を与える。

一方バズは、人間関係をその基盤とし、「学ぶ」ことと「学び方」を同時に達成しようとする特色を持っている。

思春期の不安定な時期だからこそ、互いにかかわり合い、互いに高め合えるバズの考え方を活用することは、有効な手立てと考える。

さらに、互いに良い面を、認め合う態度を高めていく中で、よりよい自分を築きあげていこうとする意欲を高めたい。

### (3) 研究の構造



以上のことをふまえて、次のような研究の構造図を考えた。各行事の困難を乗り越えるたびに、現実が理想に近づいていくと考える。

### 4 研究の方法

#### (1) 年間の核とする

行事の設定

行事・道徳・学級活動の年間の見通しを立て、意図的・継続的に各指導を積み上げる必要がある。年間の行事の中から学級経営の核となる行事として、「野外学習」と「合唱大会」を設定した。

#### (2) 班の組織づくり

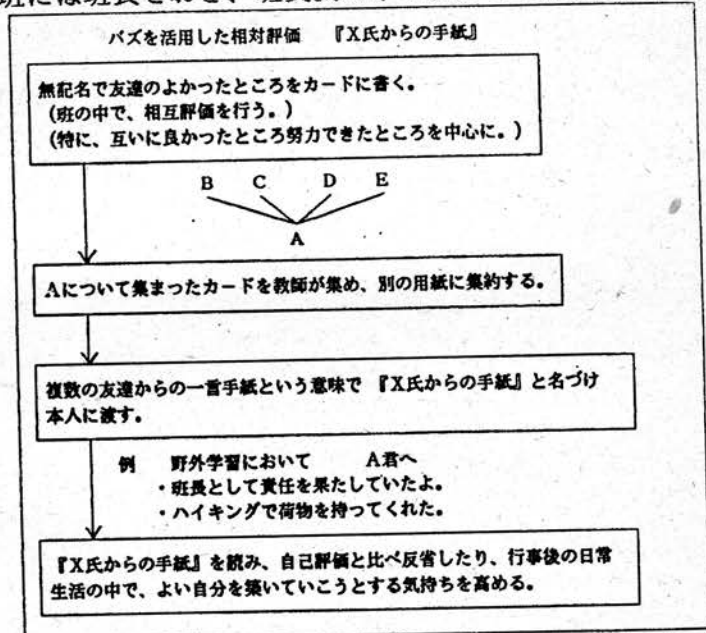
各行事で、どんな係分担が必要か考え、一人一人の役割が明確になるように、班を組織する。また、各班には班長をおき、班長会の中で班からの意見を吸い上げるとともに、班長への助言や各班への助言を行う。

#### (3) 相互評価

『X氏からの手紙』の方法

各行事への取り組みの中で、活動する班員同士、相互評価させる方法は資料のとおりである。

そしてこの相互評価を複数の友達からの一言手紙という意味で、『X氏からの手紙』と名づけた。



### 5 研究の実際と考察

次に、研究の実際と考察を述べる。特に、野外学習と合唱大会を核とした取り組みの中では、生徒のつまづきや変容を中心に進めたい。

- (1) 学級経営の年間計画立案 (TP参照)
- (2) 野外学習を核とした取り組み (5月)

**意識づけ**

みんなで力を合わせて、思い出に残るスタンプを作ろう。

- ・学級委員と希望者で五人の企画班を作成。
- ・スタンプの内容を検討。
- ・男子が「水戸黄門の最期」というシナリオを考える。

**つまづき**

企画班の男子が作った「水戸黄門の最期」というシナリオが、一部の女子が気に入らない。

- ・活発な女子が「こんな時代劇、今ごろ流行らないわ。」とって反対。
- ・シナリオをつくった二人は、「これが嫌なら自分で新しいシナリオをつくれればいいと反論。

**班長会助言**

このシナリオをやってくれる人がいるだろうか。みんなに聞いてみよう。

- ・次の日の朝の短学活で係が配役を募集。
- ・はじめは、だれもやりたがらない。
- ・ふざけて「野球部の三人がいい」という声が出た。

**係による説得**

この水戸黄門の役を野球部の三人にやってほしい。

- ・「三人でやってやるか」野球部の三人。
- ・企画班、役者班でシナリオをねりあげる。
- ・「効果音が必要だな。」・・・効果音班
- ・「衣装も作ろう」・・・衣装班
- ・「司会者が必要」・・・司会者班
- ・自分達で、必要な班を考え、それぞれが希望する役割分担ができたので、生徒達は、スタンプづくりに力が入っていった。
- ・はじめ文句をいっていた女子も衣装係としてがんばった。

今日の日記

今日、企画班のメンバーで衣装班のメンバーと話し合いました。衣装班のメンバーは、衣装を作ることに決まりました。また、効果音班のメンバーも、効果音を作ることに決まりました。野球部のメンバーも、水戸黄門の役をやることに決まりました。みんな協力して、楽しいスタンプを作りたいです。

### 野外学習 当日

野外学習当日、水戸黄門にふんした野球部の熱演と、効果音班のバックコーラスで場が盛り上がった。スタントが終って、女の子たちが「先生、私たちのクラスのスタンスが一番よかったね。」と私の所にやってきた。スタントを自分達で考え、みんなでやり遂げたという満足感が顔にあふれていた。

### ③『X氏からの手紙1』の実践から

野外学習のあと、野外学習の生活班を使って、それぞれの場において「よくがんばったこと」や「よかったなあと思うこと」をカードに書かせ集計し『X氏からの手紙』と称して、一人一人の生徒に配布した。

一番驚いたことは、日頃の学校生活では、問題生徒でほめてやろうと良いことをと探していても、ついつい注意する回数が多くなってしまう  
A男のグループが、すすんでバンガローの裏山のゴミを拾ったことである。

A男が、たきつけになる小枝をさがしに裏山に入ったら、ジュースの缶だとか、ビニール袋がたくさん落ちていた。少し拾っているうちに、その輪がそのグループにひろがり、また、その周りの生徒にひろがっていったのである。ゴミは、大きなゴミ袋2杯にもなった。この行為を他の生徒も知っていて、他のグループの生徒からも、「A男がゴミ拾いをがんばっていたよ。」という内容のカードが何枚もあった。A男は、『X氏からの手紙』を読んだ後の感想として、「自分のやったことが人にいいふうに見られていてよかった。自分のやったことは正しかった。」と感想を書いている。

私自身も、カードの集計の過程で、それぞれの生徒の良い面を再認識させられた。

### (3) 合唱大会を核とした取り組み (10月)

#### ① パート練習

夏休みから、リーダーのB子を中心に合唱大会での歌の選曲にあたってきた。

X 氏からの手紙 先生、さん

- 野外学習 こんばんは、このお返事ありがとうございます！  
ありがとうございます！
- ・お茶を淹らすための地面も一生懸命ついでくれた。
  - ・バスレクの司会も平手君を中心にがんばった。
  - ・会場のとき一生懸命お返事くれた！
  - ・ヤリ肉のたれが服についた、ちねとわいせつ！
  - ・ゴミひろいもすこくがんばった。
  - ・山をきれいにして、すこくいいことをしてくれたと思うよ。

〇 一番うれしかった内容は何か？

自分から書いたこと、人にいいふうに見られて

見られていて、よかった。

自分から書いたことは正しかった。



リーダーのB子

みんな、合唱大会がんばろう

- ・希望をとってパートに分かれる。
- ・各パートの班長を決める。
- ・毎日短い反省会をもつ。(班長会)

つまずき 1

やる気にならない友達や仲間の様子に、リーダーであるB子達が困った。

班長会助言

班長会で1日何回練習するか、決めよう。

- ・1日2回か3回がいいだろう。無理せずに2回は最低練習することにしよう。
- ・各パート練習が始まる。

つまずき 2

反省会でアルトの女子から、「アルトの伴奏テープのテンポが少し遅いと思います。だからうまく歌えません。」という声が出た。

- ・自分達の班が、ソプラノ班よりうまく歌えないので、少しいらいらしている。
- ・「もう一度、班をつくりかえたい。」
- ・ソプラノ班が上手に歌えば歌うほど、やる気をなくす。

今日の日記

月日 始めて合唱の練習をしました。

ソプラノの友達は、みんな声がよく出ています。

でも、そのままとアルトとのバランスがとれないので、やっぱり考え直した方が

いいのかもしれません。

班長会助言

私は、B子と伴奏者のK子に、アルト班の手伝いに行くように助言した。そして、私も一緒にアルトのパートを練習をするようにした。

- ・音程がしっかりとれるようになった。
- ・雰囲気がよくなっていった。



**アルト班の様子**

一週間もすると、ソプラノ班に負けにくいぐらいの歌声が出るようになってきた。

- ・反省会の中でも、「ソプラノ班につられなくなった。」という反省ができるようになった。

今日の日記  
今日、STのときにも合唱練習をした。  
昨日、STのときにも合唱練習をした。  
合唱練習の時、前とくらべてうまくなったと思える。  
1人練習の時、このようにしてパート別の差がなくなっていく。  
作りか！ めもつといいと思える。

**② 全体練習**

パート練習がすすみ、全体練習が始まった。

**つまづき 3**

男子は、パート練習のときから、A男を中心にしたグループがふざけてばかりいるのでなかなか声が出ない。

- ・班長会で、「男子の声が小さい。」という意見が出るのであるが、それに対する解決案はまとまらない。

**班長会助言**

「A男を監督にしてみんなの悪いところを見せたらどうか。」という意見を出した。

- ・次の朝の練習からA男が監督役になった。
- ・A男「俺が見ているからみんながんばれよ。」
- ・A男「N男のあたりが歌っていない。」
- ・N男「おまえだっていつも歌ってないぞ」
- ・二人が口論となった。

**個別指導**

放課後二人を呼んで「A男もN男も、誰が本当に頑張っているかは、君達の友達がいちばん知っているんじゃないか。」と一言つけ加えた。

- ・男子のやる気がでてきた。
- ・A男が監督役でみんなを注意。
- ・A男やN男もしっかり歌うようになった。



## 6 研究の結果と仮説の検証

### (1) 学級全体の変容 (抽出生徒の変容 T P 参照)

学級の変容	
意識調査	12月実施
1 2年3組は、「仲のよいクラス」になりましたか。	
はい	32名
いいえ	1名
わからない	3名
2 「はい」 答えた人は、どんなところが「仲がよい」と思いますか。(複数解答可)	
・ 男子と女子の仲がよい。	24名
・ 行事のときに団結できる。	19名
球技大会で協力した	
体育大会学級旗コンクールで2位になった。	
合唱大会で1位になった。	
校外学習で助け合えた。	
・ クラスの雰囲気がいい。	10名
・ 明るいクラス	10名
・ その他	
授業で教え合いができる	8名
テストの点を競争できる	2名
3 「いいえ」「わからない」と答えた人は、どんなところがいけないと思いますか。(複数解答可)	
・ 変なことをいってからからってくる人がいる。	1名
・ 男子がたまに、先生に叱られる。	1名

学級全体の変容を明らかにするために、生徒が理想と考えた「仲のよいクラス」をもとに意識調査を行った。

この結果から、生徒自身が理想と考えた学級像に、近づいてきたことがわかるだろう。目的をもってそれぞれの行事を乗り越え、認め合う雰囲気を育てることが、よりよい個やよりよい集団を育てていく原動力になったのである。

しかし、「いいえ」と答えた生徒の理由の中には、「友達にからかわれる。」「嫌がることを言ってくる。」と訴えている生徒もある。少数意見だが見逃すことができない意見だと考える。

さらに、行事で培われた人間関係の高まりは、授業の中での教え合いやテストの前に励まし合う雰囲気へと転移していった。

仮説でも述べたように、互いに良いところを認め合える場を設定し、他の長所を認める態度を育てていく中で、『自己を高めよう』『よりよい自分を築いていこう』とする意欲が高められたのである。

言い換えると、《ほめられる・認められる》→《うれしい》→《今度もやってみよう》と自分自身を変革する、内なる力に変化したのである。そして、認め合える雰囲気を生み出したのである。